

# 六篠会報

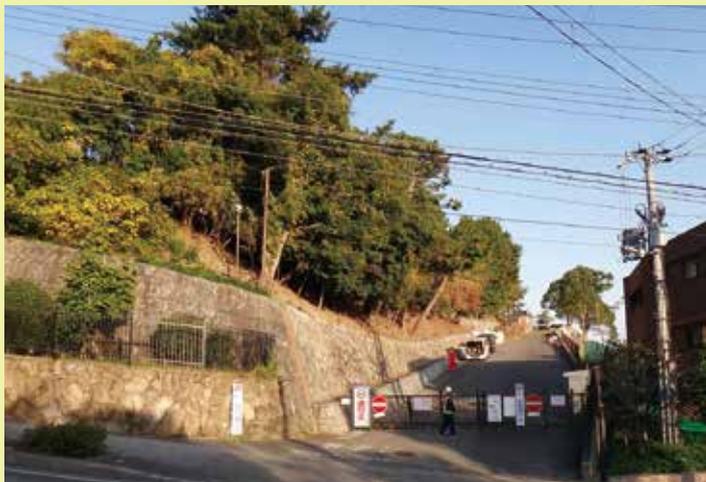
RIKUSOUKAI



西出入口 (六甲台南口バス停付近)



文理農学部正門から



通称「定年坂」(現在工事中)



文学部から正門方向

- 六篠会会長挨拶 六篠会会長 中村 直彦 ..... 2
- 農学部近況報告2021 農学研究科長 土佐 幸雄 ..... 3
- 神戸大学の近況報告 神戸大学長 藤澤 正人 ..... 4
- 農学部は今 六篠会理事 福田 伊津子 ..... 5
- 私の業界・私の仕事 三崎 陽子 (神C21回) ..... 6
- 私の業界・私の仕事 高野 知司 (神Z16回) ..... 7
- 私の業界・私の仕事 谷口 茂 (神C13回) ..... 8
- 私の業界・私の仕事 松本 隆志 (神Z22回) ..... 9
- 輝く同窓生 足立 隆昭 (兵A9回) ..... 10
- 学友会だより 学友会会長 坂井 信也 ..... 11
- 神戸大学クラブ(KUC)について KUC運営委員長 進藤 政和 11
- 関東支部総会並びに東京六甲クラブ 関東支部長 上山 維介 12
- 研究室紹介Ⅰ 園芸植物繁殖学 安田 剛志 ..... 13
- 研究室紹介Ⅱ 植物機能化学 杉本 幸裕 ..... 14
- 第15回ホームcomingデイ報告 六篠会理事 新岡 史朗・山田 健次 15

- 六篠賞
  - 六篠論文賞 深山 浩 ..... 16
  - 六篠業績賞 笹崎 晋史 ..... 17
  - 六篠学術奨励賞 宮路 直実 ..... 18
  - 六篠学術奨励賞 前田 瑞稀 ..... 18
  - 六篠学術奨励賞 津田有梨花 ..... 19
  - 六篠学生賞 柏木 結 ..... 19
  - 六篠学生賞 川端 孝典 ..... 20
  - 六篠学生賞 小林 航平 ..... 20
- 2021年度代議員総会報告 ..... 21
  - 2020年度庶務報告 ..... 21
  - 役員・代議員 ..... 21
  - 一般事業・学術振興事業関連 ..... 22
  - 慶弔関連・退職及び着任教員 ..... 23
- 支部だより KŌBE六篠会 会長 林 昌弘 ..... 23
- 2020年度収支決算・2021年度収支予算 ..... 24
- 同窓会事務局の案内・編集後記 ..... 24

2022年は神戸大学創立120周年を迎えます  
人と人がつながり、ワンチームになろう！

六篠会会長 中村 直彦 (神Z1回)



皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。

昨年からのコロナ禍で社会活動、経済活動そして同窓会活動までが停滞しましたが、今後はウイルスとの共存社会を続けることとなりますので引き続きご自愛ください。

### ●神戸大学のあゆみを紐解く●

神戸大学は、1902年に神戸高等商業学校に端を発して建学され、戦後の1949年に、それぞれの前身校が纏まって文理学部、教育学部、法学部、経済学部、経営学部、工学部の6学部を持つ組織となりました。また、1964年に医学部が、1966年に農学部が、兵庫県立大学から国立移管され、さらに2003年に神戸商船大学との統合により海事科学部が発足いたしました。

今では、文学部、国際人間科学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、医学部（医学科・保健学科）、工学部、農学部、海洋政策科学部（2021年度より海事科学部が改組）の10学部を擁する「文理融合研究で輝く総合大学」となっています。

その神戸大学は、その時々素晴らしい人材である卒業生を社会に輩出し、誇れる神戸大学の歴史を築いてきました。

そして、2022年には「神戸大学創立120周年」を迎え、秋に盛大な行事が開催されます。元気な同窓生の皆様に、出会え、語ることを楽しみにしています。

### ●大学の取り組みが目指すもの●

神戸大学は、「学理と実際の調和」を建学の理念とし、真理の探究と社会実装を旨として学問の継承と発展に寄与するとともに、人類社会の課題解決に貢献することを使命としています。

そして、本年4月、本学医学部卒業の藤澤正人学長が選出され、新執行部が発足し、新しい方向性が示されました。

大学の方針は、10学部、15研究科のそれぞれの特色、強みを活かし、さらにそれらの横の繋がり、連携により、知と人を創ることによって新しい領域を創っていくこと、また、産官学の異分野と連携し共創・協働により新たな研究資金の獲得や大学の活性化を目指すことにしています。

教育、研究の分野にあつては、将来性があり先端性、卓越性、独創性、実用性を鑑み、社会実装を見据えて選択と集中の論理で取り組むことで、いち早く、社会への還元・社会への貢献に応えたいとしています。

一方、「真理を探究」する評価の高い基礎科学の研究に取り組むことの“キラリと光るテーマ”が望まれています。

IPS細胞の作成への展開は、まさに世界を変え社会の基

盤を築く、重要な領域への発展につながりました。

また、農学部では、食料・環境・健康生命に代表される農学の諸課題を探究し、持続可能な社会を構築するために重要な役割を果たしてきています。このことは素晴らしい教員のもとに、これまでに築き上げてきた高い教育研究活動によって、多くの優秀な学生が農学部集まり、巣立ち、社会に輩出できていることを物語っています。

六篠会は、一昨年の農学部創立70周年記念事業において、学舎のLED化による電気設備の改修を行い、大学運営を側面的に応援し、農学部の研究活動を支えてきました。

しかし、現在の「異分野共創研究教育グローバル拠点」を目指す神戸大学にあつて、農学の教育研究の基盤ともいえる施設改修や機器等の整備は、まさに知の創出、人材の創出並びに農学部の飛躍的発展のためにも喫緊、かつ最優先の課題であると感じています。今後とも、課題の対応に関し、土佐農学研究科長、万年・石井の両副研究科長と継続して協議することになりました。

(中村、原山代表理事が出席)

### ●同窓会の使命と取り組み●

六篠会では、(1)在校生に対しては、学術講演会や海外渡航の援助、六篠賞の贈呈、学園祭の援助、就職ガイダンスや業界紹介の就職活動支援等のほか、(2)農学部・農学研究科の発展に対し支援を行っています。(3)また、同窓会活動の意味するところは、「大学と卒業生、同窓生同士を繋げる役割」を果たしていることです。とくに社会に出れば人と人とのつながりが大事になります。

①同窓生との交流を通じて研究や仕事の情報が入ってきます。

②また、若い力・新しい発想が新しい価値・新しい領域を生み出し、新しい社会を創り出すといった連携事業への発展に結びつくことも可能になってきます。

③さらには自分自身の生活を楽しく、豊かにすることにも繋がります。

④コロナ禍にあつては、社会や各企業等では多様な課題を抱えています。

このようなときこそ学部の垣根や世代の壁を超え、異業種企業や行政などの多様な組織・同窓生が、神戸大学のもとにワンチームとなって結びつくことが重要になってきます。

六篠会は、ホームカミングデイなどの各種行事や六篠会報、或いは他の同窓会《学友会支部》との交流を通じて、同窓生との連携の機会を作ってきています。

今後とも、六篠会の皆様には、神戸大学、そして農学部、六篠会にご理解・ご支援をいただくとともに、同窓生との交流・連携の輪を広げられることを願ってやみません。



大学院農学研究科長・農学部長 土佐 幸雄

六篠会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2021年4月に河端俊典教授の後任として、研究科長・農学部長を拝命致しました土佐と申します。専門は植物病理学です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新型コロナが発生してから2年が過ぎようとしています。この感染症の世界的流行は、人々の生活を大きく変えてしまいました。神戸大学におきましても、2020年春の卒業式、入学式が中止となりました。翌2021年3月には、第3波が収まり小康状態となったため、出席者を制限しながらも卒業式を行いました。また、4月には2020年度・2021年度入学者対象の入学式を行うとともに、新年度講義・実習を対面中心としてスタートいたしました。再び感染者が増加し、4月下旬には緊急事態宣言が発出されたため、専門講義の中心をオンラインへとシフトせざるを得ませんでした。しかし、農学は実学であり、実験・実習が大きなウエイトを占めております。農作物を扱う以上、季節性もあります。そこで、実験・実習については、感染防止対策を十分にとりながら、対面で行うことといたしました。また、6月下旬に緊急事態宣言が解除された際には、完全解除でなく蔓延防止等重点措置への移行ではありましたが、講義も対面に戻してよいことと致しました。これは、農学部は少人数教育体制となっているので、密を避けることは可能、という判断に基づくものでした。幸いにも、クラスターを出すことなく、前期の講義全日程を終えることができました。これは、ひとえに学生諸君ならびに教職員の皆様のご協力のたまものだと思っております。

人の移動を伴う国際交流（海外への学生派遣・海外からの非常勤講師の招聘等）は、まだほとんど停止したままですが、オンラインによる国際交流を再開しました。2021年5月～8月には、UPLB（フィリピン大学ロスバニョス校）の英語教育専門家3名による、大学院生対象のオンライン講義（英語プレゼンテーション演習）を開講しました。これは、計7コマのZoom双方向講義と、それら間に行う学生1人当たり15時間のマンツーマンレッスンより構成されており、このようなスタイルで4か月にわたって外国の教授の直接指導を受けるのは、オンラインだからこそ可能になったものでした。また、9月には、UNL（ネブラスカ大学リンカーン校）教授による学部学生対象オンライン講義（農学英语）を実施しました。毎年夏に行ってきたUPLBへの学部生派遣（英語研修ならびに現地学生との交流）は昨年が続いて今年も中止と致しましたが、2022年2～3月にオンラインで行う予定です。オンラインであれば、地理的距離は全く関係ありません。特に若者達は、オン

ラインアイテムを駆使して、苦も無く国境を越えていきます。彼らの逞しさは頼もしい限りです。

一方、研究活動は、ほぼ新型コロナ前の水準に戻り、各研究室では大学院生を中心に活発な研究が行われています。そのようななか、本年も嬉しい受賞のお知らせがありましたのでご紹介したいと思います。伊藤博通教授が「Speaking Plant Approachによる植物の生育制御に関する研究」で日本農業工学会学会賞を、水野雅史教授が「腸管を介した食物繊維の新規生理活性機構の解明」で日本食品科学工学会学会賞を、笹崎晋史准教授が「兵庫県黒毛和種集団における肉質関連遺伝子の同定」で日本畜産学会学会賞を受賞しました。また、山下陽子准教授が「ポリフェノールの消化管シグナルを介した生体調節機能解明に関する研究」で、日本栄養・食糧学会奨励賞を受賞しました。

神戸大学は、ウイズコロナに向けて着実に歩みを進めております。新型コロナワクチンの希望者への職域接種は、2021年9月初旬にほぼ完了致しました。興味深いことに、農学部・農学研究科の学生の接種率は他学部と比べて高く、特に大学院生における接種率は70%を超えて、最も高い値を示しました。この原稿を執筆している時点（2021年10月初旬）においては、緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置も解除され、社会は動き出しつつあります。第6波を懸念する声もあり、まだ予断を許しませんが、少しずつ、教育・国際交流においても本来の姿に戻れるように全力を尽くしていきたいと思っております。

特に、学生・教員の海外派遣に力を入れたいと考えております。最近、メディアでも日本の研究力の低下が指摘されています。先日も、注目度の高い論文の数（トップ10%論文数）が、2000年代半ばまでは世界4位を維持していたもののその後下がり始め、2017～2019年平均では10位になったという衝撃的な報告が文部科学省から発表されました。これをV字反転させるにはどうしたらよいかを考えた時、最もダイレクトな方法は、若者（学生・若手研究者）に対し、海外の異なった環境・異なった分野に身を投じ武者修行する機会を与えることだと思います。1人の研究者の中に異なった分野の知識・考え方・手法論が宿れば、それらが相互作用してスパークを起こすはずでです。学生・若手研究者の海外留学を後押しするシステムを考えたいと思っております。

最後になりましたが、六篠会からは、農学部・農学研究科へのご援助、ならびに神戸大学新型コロナ感染症対策緊急募金へのご寄付を頂きました。ご厚意、誠にありがとうございました。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

# 神戸大学の近況報告

～知と人を創る  
異分野共創研究教育グローバル拠点をめざして～



神戸大学長 藤澤 正人

六篠会の皆さま、2021年4月から第15代神戸大学長を拝命しております藤澤正人でございます。医学部出身としては、3人目ですが、神戸大学医学部卒業生としては、はじめて学長に就任させて頂くことになりました。専門分野は、腎泌尿器科学、臨床医として約40年間診療しながら研究、教育を行い、その間に附属病院長、医学研究科長を務め、この度学長となりました。

今、日本は、コロナウイルス感染によって経済の低迷、医療の逼迫という大きな問題を抱え、社会の動きは不透明な状況が続いていますが、大学においても教員、学生、事務職員の教育研究活動において大きな影響を受けています。特に、学生教育への対応には多大なる配慮を要し、国際共同事業においても留学生をはじめ多くの研究者の国際交流が難しく、著しい支障をきたしています。すでに、ワクチンを希望される学生、教職員の方には学内で職域接種が行われ、接種率は60%（9月末現在）に到達しましたが、変異株の感染流行により収束のめどは立たず引き続きしっかりした感染対策が必要です。10月からの授業開始にあたっては感染対策をしっかり行い、可能な限り対面授業を取り入れ学生に早く満足のいくキャンパスライフを取り戻してあげたいと思っています。学長として先を見据え強いリーダーシップを発揮し、大学における通常の研究教育活動を取り戻し、さらなる活発化を図らなければなりません。

大学の使命は、知的活動や創造力によって真理を探究する基礎科学研究、あるいは、地域社会と共に創る応用科学研究の共創・協働によりイノベーションを創出するとともに、卓越した教育により人材を育成し、社会に貢献していくことであると考えています。神戸大学の強みと特色をさらに活かして異分野で共創し研究教育、経営体制の強化に取り組むとともに国内外から世界トップレベルの研究教育者を糾合し、その質のさらなる向上と機能拡充を図り、優秀な人材を育成できる、国際的な卓越研究教育拠点を目指して参りたいと思います。また、学内の卓越した研究シーズを集約し、全構成員が大学の知を共有し、それぞれの専門領域の研究を推進・強化するために学内の連携を深めるとともに、新たな異分野での共創学術領域を創出して産官学連携体制を強化します。さらに、今回のコロナ感染の中で大学として浮かび上がった様々な課題にしっかり対応し、コロナ禍ゆえに得られた知と経験を活かし、コロナ禍を克服して教育研究活動を推進していくことも重要です。

来年度から第4期中期目標・計画期間（2022年～）が始まります。運営費交付金が減少するなか、国からの評価に基づく配分額はさらに増えるものと思われま。第3期とは違い、ほぼすべての計画に対してKPI

（評価基準）を設定しており、その達成に向けた取り組みが厳しく評価されると思います。したがって、大学一丸となってより一層の研究教育機能の強化と社会的ニーズに応えられるよう改革に取り組んでいかねばなりません。大学運営・経営においては、しっかりした評価のもとで透明性、公平公正を担保し、人材や資金の配分を行い、有効活用できるようにしたいと思います。とくに、重点分野や新領域には、神戸大学の目玉として発展できるよう支援し強化していきたいと思っています。第4期では、おそらく第3期における大学の3区分（第3期、神戸大学は区分③）とは違った大学の枠組みが構築されると思います。神戸大学がどのような区分に属するかはわかりませんが、そのなかでの評価による大学間競争が、また激しくなると思います。国は10兆円ファンドの制度を打ち出していますが、このファンドを利用できる大学の条件として特定研究大学という枠組みを作り、一定の基準を設け審査するようです。現在、基準については検討されていますが、特定研究大学には経営を強化するために新しい会議体を設け経営のガバナンス体制を強化するようです。神戸大学としてもファンドの利用できる特定研究大学として飛躍できるようしっかりと検討していかねばなりません。一方、学内でも研究ファンドとして、SMBCと協定を結び神戸大学ファンドを創設するとともにアントレプレナーシップセンターを設置し、起業してベンチャーを設立しチャレンジする優秀な研究者を支援する仕組みを作りました。若い研究者の独創的な発想と実行力に期待しています。

最後に、神戸大学は、2022年創立120周年を迎えます。六篠会の皆様方には、引き続き神戸大学の発展に向けて高所大所からご指導・ご鞭撻ならびにご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 「ヒト・モノ・カネ」支援体制構築のための産官学連携協定



左から神戸大学 藤澤正人学長、久元喜造神戸市長、三井住友銀行 角元敬治副頭取

生命機能科学専攻応用生命化学講座動物資源利用化学教育研究分野  
六條会理事（庶務担当） 福田 伊津子（神BC31回博前29回）



今号は、前任の鈴木先生から2020年度より六條会理事（庶務）を引き継ぎ担当させていただいております福田より、農学部の状況をお伝えさせていただきます。この1年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症という波が押し寄せては引く状況に翻弄された、ということに尽きるのではないのでしょうか。昨年度に引き続き、今年度も大学の授業実施方法は遠隔授業と対面授業の併用となりました。夏休み期間には神戸大学でも職域接種を実施し、職員のみならず学生のワクチン接種も進みました。また大学の活動制限指針はレベル2（一部レベル1）から変更なかったため、後期は感染拡大防止に配慮しながら対応が可能な範囲で対面による授業を行うこととなりました。ただし、受講者数の多い授業では遠隔授業となることや、基礎疾患を持つ学生や未だ入国できていない留学生への配慮、その他学生の希望等を考慮しなければならないなど、通常と異なる環境での授業実施が続いている状況です。

遠隔授業では、ウェブ会議ツールを使用したリアルタイムでの講義形式に加えて、神戸大学学習支援システムのBEEF等を使用したオンデマンド配信形式が活用されています。多くの先生方はZoomを使用したリアルタイムでの講義を望まれますが、私は専らGoogle classroomを使用したオンデマンド配信による講義を提供しています。教員側の立場としては講義準備の時間さえ確保すれば決められた時間に授業しなくても良いこと、授業の理解度確認のためのテストの採点が自動で、またExcelでの集計が可能なことが主な理由です。学生側の立場としては決められた時間にインターネット環境を確保しなくて良いこと、理解できるまで動画を何度も繰り返し視聴できることが利点として挙げられます。実際、私が担当した40名程の授業では、67%の学生がオンデマンド形式が良いと回答しました。授業動画を自分のペースで何度も視聴できることが大きな理由のようです。一方で、オンデマンド配信であってもいつかは動画を視聴しないといけなければならぬ、決まった時間に受けるリアルタイム形式の方が好ましいという学生や、やはり対面形式で教員とだけでなく、友人とも直接話したいとの意見もありました。このような遠隔授業が成立したのは、各家庭のインターネット環境が整っていたのに加えて、偶然、神戸大学が2019年学部入学生からノートパソコンを必携化していたことも功を奏したようです。私が学部学生の頃を思い起こせば、学生実験のレポートはもちろん手書きで、研究室に配属されてからは研究室の共用パソコンを使用し、卒業論文を書くために自分のパソコンを買うにも数10万円するので一大決心でした。今では手頃なノートパソコンは10万円未満で入手できるのも後押ししていると思います。

対面授業でなければ指導や評価が難しい演習や実験等については、実験室に入る人数を減らす目的で半数ずつ

講義日や時間を割り振って実施したり、そのために実験項目を減らしたり3分クッキングのように待ち時間を減らすよう予め教員側が準備したりと、様々な工夫を重ねています。逆にこのことが時間の有効活用を考える機会を失わせていて、例えば1日に行う実験が複数あれば、片方の実験の待ち時間の間にもう片方の実験を進めていくなど、限られた時間をやり繰りして正確かつ確実に、なるべく早く実験を終えられるようにと、作業効率も考慮して実験する習慣を身に付けることが難しくなっているようにも思います。

研究面でも少なからず影響を受けた方が多いのではないのでしょうか。居室や実験室を共用するメンバーは、ドアノブ、電灯やエアコンのスイッチ、実験器具等あらゆるものに感染リスクがあり、ワクチン接種したとしてもブレークスルー感染することもあることから、通常の研究生活を送ることに不安を感じる方も少なからずおられると思います。身近に感染リスクがなくても、プラスチック製品や試薬等の世界的な欠品が起こっており、この影響を受けて実験が進められないといったこともあります。他方、ウェブ会議ツールの整備が全世界的に飛躍的に進んだことで、インターネット環境さえ整えば、現地に出張しなくても気軽に学会やシンポジウムに参加できるようになったことは、「災い転じて福となす」大きな収穫だと思います。学会やシンポジウムへの参加だけでなく、遠方の研究者とも出張にかかる移動時間や場所の調整をすることなく頻繁に打合せをできるようになりました。今後もウェブ会議室ツールを活用した学会開催や気軽に打合せできる環境は維持されることを期待しています。

この原稿を執筆している10月末は、大きな第5波を越えて、次なる第6波が来るのか、来るとしたらいつ、どのぐらいの大きさか、様々な推測がメディアを賑わせています。ワクチン接種率が上がっているので次の波はそれほど大きくならないとの予測がある一方、新たな変異株への懸念もあり、またこれからは季節性インフルエンザが流行する時期にもなります。キャンパスライフを楽しむにはしばらく時間がかかりそうですが、美酒を片手に農学部の「今」を回顧する日を心待ちにしています。



学舎風景

旭化成株式会社 パフォーマンスプロダクツ事業本部  
 繊維技術開発総部 新事業推進部 技術企画グループ長  
 弁理士 **三崎 陽子** (神C21回)



1990年に旭化成株式会社（当時は旭化成工業株式会社）に入社しました。バブルの最中、就職活動は完全に売り手市場でしたが、まだまだ女性に対する世間の風は厳しく、男性よりは苦勞をした記憶があります。その中でご縁があって旭化成に入社しましたが、当時はまだ女性の総合職採用がなく、研究所勤務の地域限定採用でした。ライフイベントを重ねる中、仕事を続けることを困難に感じたこともありましたが、こうして継続できたのは家族の支えと会社の手厚い制度のお陰だと心から感謝しております。

入社した当初の業務は、繊維の加工技術研究ということで、農学部で勉強したことが活かされることは殆どありませんでした。しかし、高分子化学の専門家の中でたまに酵素加工やタンパク合成の話が出てくると、自分にも出番が回ってきたような気持ちになり、心がワクワクしたことを覚えています。今でも業務で生物化学系の話が出ると、自分は学生時代に勉強したことが本当に好きだったのだと実感します。私が研究室に所属したのは1年という短い期間でしたが、他界された岩崎照雄先生、退官された山形裕士先生のご指導の下、先輩方にも恵まれ、研究面でも、そしてキャンパスライフ面でも、人生の中でさらさらと輝く宝石のような1年でした。先生のお宅に遊びに行かせて頂いたり、先輩方と徹夜でメロンをすり潰して酵素を抽出したり、研究室メンバーで何度もゼミ旅行に行ったりと、今でも私の中では忘れられない大切な思い出です。

ということで、旭化成では大学時代の専門分野からは遠く離れた環境で、入社以来、繊維事業領域に携わっています。前述した繊維の加工技術研究から始まり、繊維の商品開発、評価技術開発、知財関連業務を経験し、現在は繊維事業領域の新規事業創出に関する企画業務を担当しています。

実は今回、同窓会報『六篠会報』へ寄稿させて頂くことになったのも、現在の担当業務がきっかけです。今年度より新規事業創出のための取組みを始めたのですが、初めての試みでわからないことも多く、社内外のネットワークを最大限に活用しました。その中で偶然に六篠会の中村直彦会長のご息とお知り合いになり、たまたま出身大学の話をしたところ、光栄にもこのような機会を頂くことになった次第です。

また10年ほど前、当時担当していた繊維の評価技術開発に関して、国際人間科学部（旧発達科学部）の井上真理教授とお仕事をさせて頂く機会があり、それがご縁で、毎年「衣環境論」のゲストスピーカーを務めさせて頂いております。講義では旭化成や繊維業界のご紹介だけでなく、大学の先輩として、社会人になる意味や生活環境の変化について、学生の皆さんがイメージしやすいようにできるだけ具体的にお話しすることを心掛けています。特に学生の皆さんに対するメッセージとして、「自分が苦

手意識を持っていることでも、実は自分の強みになることがある。そこを見つけることができれば、自分の幅がグンと広がる」ということをお伝えしています。私自身、自ら積極的に発言するタイプではなく、大勢の前で話すのも苦手でしたが、なぜか外部講師や司会進行のお仕事を頂くことが多く、ある時期、実はこれが自分の強みであるということに気がきました。ですので、「好きなことはモチベーション高く、突き進めばより一層の強みになり、嫌いなことでも他人から見れば強みに繋がることもあるので、自分自身を発掘してみよう!」、と語ると、学生の皆さんには印象に残るようです。

この2年間はコロナの影響でゲストスピーカーもオンライン配信となりましたが、以前は講義の帰りに必ず農学部に立ち寄っていました。学生時代に先輩としてお世話になった白井康仁教授が研究室におられるので、当時の思い出話や研究室仲間の情報交換など、話が尽きることはありませんでした。すっかり話し込んで、農学部を出るのはだいたい夕暮れ時になるのですが、ランスボックスから見下ろす景色は数十年経った今も変わらず、学生時代にタイムスリップしたような気分になります。また、講義で学生の皆さんを目の前にすると、学校で仲間と一緒に勉強することができる環境を心から羨ましく思いました。

そこで、数年前にふと、もう一度『勉強』というものがしてみたくなり、当時知財業務を担当していたこともあって弁理士資格にチャレンジしました。最初は勉強すること自体が難しく、すぐに脳が疲れてしまい予備校でもほぼ居眠っている状態でしたが、人間、トレーニングを積みれば何とかなるものです。集中できる時間が少しずつ長くなり、記憶力も蘇ってきました。今はまた脳が退化し始めていますが、いつまでも学生時代の気持ちを忘れず、自分の身体と脳をフレッシュに保つため、常に新しいこと、興味のあることにチャレンジしていきたいと思っています。

前述したように私には幸運にも、中村会長、井上教授、白井教授と、神戸大学に繋がるご縁がたくさんあるようです。人のご縁は、仕事を進めるうえでも人生で悩んだときにも本当にかげがえのない財産です。これからもこうしたご縁を大切に、何らかの形で青春時代を過ごした、愛する母校のお役に立てればと考えております。

	好きなこと	嫌いなこと
強み (得意)		ここを見つけよう!
弱み (不得意)		

衣環境論の講義スライドより



アクティブ・ギア株式会社  
代表取締役 高野(中村) 知司 (神Z16回)

「受験番号 90164」

掲示板に見つけた瞬間、黒服に囲まれた。その時から、農学部と体育会アメリカンフットボール部 RAVENS との「二軸」の4年間が始まった。実験が終わると大急ぎでグラウンドに駆けつける毎日。他学部生の話を聞くうちに、世界規模での農業生産や流通に興味を湧き、総合商社のニチメン株式会社(現: 双日株式会社)に入社。食料本部で国内外のメーカーと外食産業が使い易い加工食品の開発に取り組むことになりました。

入社2年目、社内論文コンクールに「生態系を意識した和牛のブランド化」で入賞しました。担当役員から「面白い、専門性がある、予算をつけるから具現化」との命令。さあ大変!

研究室で指導頂いた辻莊一先生に相談すると、すぐさま但馬牛の産地(美方郡)と交渉してくださいました。「神大卒業生の案件なら」と特別に仔牛市場へ買参を認められ、無事に仔牛を競り落とせました。ところが、実際の農業現場を知らない。壁にぶつかりまくる。その度に学生時代の資料を眺め、伝手を頼って畜産農家や東北大学まで出向いて飼料や育て方などの教えを請い、地元農家の方に助けられて出荷まで漕ぎつけました。

中国駐在時には、英国から合鴨ヒナを中国に輸入して「北京ダック」用に育てて対日輸出する事業に携わりました(保税加工)。この時は、如何に鴨を健康かつ効率的に育てるかを中国側パートナーと気持ちを込めた関西弁でやり合いました。今でも、「北京ダック」と聞くと、広大な大陸の夕焼けを思い出します。

未婚時代の私は一生懸命に『仕事』をしていました。如何に業績をあげるか、他社(者)との競争に負けないか、が関心事でした。「お客様」(飲食店、消費者)が喜んで購入してくれる、便利な物、美味しい物を開発・販売すべく走り回っていました。40歳の時に子どもが生まれました。日々の食事を共にするうちに、子どもを「食べる人間」として意識するようになり、選ぶ食材、訪れる店が気になり始めました。

48歳の時にアクティブ・ギア株式会社(東京都文京区)を設立しました。理念は「食を通して健康と世界平和に

貢献する」です。設立の底流には、お客様の先にいる「食べる人間」への意識があります。家族や大事な人と食べたい食材を扱い、その食材を使った食事を提供してくれるお店を応援したい。私にとって、『仕事』が物事を自分自身に引き付けて考える『私事』に代わっていきました。

そもそも私はモノを作る人でも、モノを売る人でもありません。商品はあくまで表の部分です。私が売りたいのは世の中を幸せにする「仕組み」です。飲食店は多くの制約を抱えています。例えば、48時間煮込んだシチューを作りたいが、スペースの限られたお店でコンロが占有されると他の料理が作れない。スタッフの労働環境改善も課題です。そこで、わが社で46時間まで煮込んだものを作りお届けします。店舗で調理の仕上げをして最高の笑顔でお客様に提供していただく。そのために、食材を確保すること、作ることをやっています(「セントラルキッチン(仕込み代行)」。そういうものは従来の流通ルートにはのらないので、自社で「物流センター」も運用しています。

農学部を卒業した一人として、危機的状況にある日本の農水産業活性化を『志事』と考えています。例えば、食資源教育研究センターでは神戸牛の源流ともいえる牛を飼育しています。約15年前、この牛肉をデパートで販売する取り組みがありました。いま、私たちは大学と連携して「一頭買い」して首都圏の飲食店で「神戸大学ビーフ」としてブランド化する「6次産業化」(※)に取り組んでいます。お客様から見てもトレサビリティ(生産履歴)がしっかりしているから安心です。「買うことに意味がある」仕組みづくり。生産者と消費者が同時に幸せになることを目指しています。この活動を通して、神戸大学の地域貢献にも繋がることを期待しています。

(※)「6次産業化」とは  
『農林漁業(1次産業)』と、『工業・製造業(2次産業)』・『販売業・サービス業(3次産業)』との総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組です。  
これにより農山漁村の所得向上や雇用確保を目指しています。  
『農林漁業』×『工業・製造業』×『販売・サービス業』= 市場創造

牛も、名門。



「神戸大学ビーフ」、世界へ。

神戸大学農学部(食資源教育研究センター)が生産した、当然「国産」の黒毛和牛「神戸大学ビーフ」。焼肉激戦区、東京・新宿の老舗焼肉店との共同企画など販売試験もスタートし、いよいよ日本全国へ、そして世界へ。神戸と言えば、牛も、名門。神戸大学。



神戸大学  
KOBUE UNIVERSITY

株式会社明治 常務執行役員 研究本部長 兼 発酵デイリー開発本部長  
 明治ホールディングス 執行役員（価値共創センター管掌）

谷口 茂 (神C13回)



ここ数年60歳を前にして俄かに同窓会の誘いが増え、その一連の流れに従って六條会をはじめとした神戸大学の同窓会に参加してみて、同窓生の皆さまが様々な領域でご活躍になっていることを知り、もっと早くから参加すべきだったと後悔していた矢先に会報への執筆依頼をいただきました。

私は、神戸市灘区の大学に程近い篠原近辺で育ち、大学を卒業するまで神戸を離れたことが無く、半径10Km圏内で過ごしてきました。また、灘五郷も近かったせいかお酒との距離も近く、なぜか「将来お酒造りをしたい」と思いながら大学受験をした思い出があります。

大学では体育会の硬式庭球部に入学して、4年間テニス漬けの毎日でありましたので、教養学部は補習を受けて仮進級といった状態でありました。専門課程では当時一番人気であった西羅寛先生率いる「発酵生産学教室」に入ることができました。私の卒業研究は、青木先生がその年から始められた「アニリン資化性菌の探索」となりました。運よく資化性菌は見つかり、青木先生から「大学院に残らないか」とお誘いを受けましたが、もうこの辺りで神戸を出なくては私に人生がおかしくなるのではないかとという不安に駆られ、お断りして就職活動に励むことになりました。

就職先は、部活の先輩からの推薦で数社から内定を頂いていましたが、推薦ではなくやはり自ら選んだ会社で働きたいと思い「明治乳業」に入社することになりました。お酒を造りたいという夢はかなわいせんでしたが、お酒が牛乳に変わりました。

最初は北海道の原料工場に配属されましたが、入社3年目に当時珍しかったバイオテクノロジーを基盤とした医薬研究を行う研究所への転勤を命ぜられました。当時の明治乳業は業界2位とはいえ収益性が極めて低く、収益性の高い医薬品分野に進出して収益体質を改善したいとの強い意志を持っていました。研究者は海外に頭脳流出しておられた研究者をスカウトした方たちが主流で、後に京都大学の再生医学研究所を作られた中辻博士など優秀な研究者が集っていました。いつしかプロジェクト管理を任されるようになり、tPAという血栓溶解剤の研究開発やB型肝炎ワクチンのプロジェクトを担当いたしました。すべてが成功したわけではありませんでしたが本当に貴重な体験でありました。

そうこうするうち、31歳の年に新たに京都の製薬会社を買収するのでその先陣として行ってくれないかということになりました。そこでは自ら起案した事業計画を基に、買収当時に行っていた事業を廃止し、全く異なる方向性に事業転換する経験をすることができました。

経口ゼリー製剤の開発でした。製薬業界に移っててもっとも感じたのは真のエンドユーザーである患者

はほとんど無視されているという事実でした。患者は苦かったり、量が多くて飲みづらい薬も何とか飲んで病気を治そうと努力します。もっとスムーズに飲んでいただくようにできないか？

経口ゼリー製剤は様々な特長のある剤型でありましたが、予期せぬメリットとして少量の水で服薬できるということが分かりました。特に透析患者が必ず服用しなければならない陰イオン交換樹脂製剤は、服用する際に多くの水で服用しなければならなかったのですが、この剤型にすると水の量が従来の10分の1程度まで低減することができるようになり、患者様に大変喜ばれました。この剤型は日本薬局方の製剤総則に登録されました。

関係会社での勤務も13年目を迎えようとしていた時、本社で機能性食品開発を命ぜられました。44歳の年でした。

当時の明治乳業では日本で初めてのプロバイオヨーグルトLG21がヒットしており、それに続く第2のプロバイオヨーグルトの開発が私の使命でありました。しばらく考えた末取り組んだのが、日本のヨーグルトの代表ブランドでもあるブルガリアヨーグルトの原点を追求しようと考えました。ブルガリアヨーグルトのブランドコンセプトは、「長寿の国のヨーグルト」です。イリア メチニコフ博士がブルガリアがなぜ長寿国なのかを研究した成果として唱えた「食細胞説」は、ヨーグルトが人々の免疫を活性化して長寿を達成しているのではとの仮説です。この仮説に基づき、明治で保有していた乳酸菌ライブラリーからIFN $\gamma$ 産生誘導活性でスクリーニングしたところOLL1073R-1株が高活性を示しました。その後臨床試験においても効果が確認され、ヨーグルトの免疫賦活機能を生かしたプロバイオヨーグルトでした。この研究は「R-1ヨーグルト」につながることとなりました。

「R-1ヨーグルト」は開発に10年近くを要しましたが、無事第2のプロバイオヨーグルトとして当社の主力商品となりました。

2009年には明治乳業と明治製菓が経営統合しました。その後事業再編をして食品ドメインを担当する株式会社明治が誕生しました。

これまでの人生を振り返ると持ち前の「好奇心の強さ」と「まあなんとかなるわ」という暢気さで何とか乗り切ってきたような気がします。また、なぜか周りの人々に助けられました。本当に感謝しかありません。会社での仕事も終盤を迎えています。現在はアンチエイジングを腸内環境を改善することで解決できないかと悪戦苦闘しています。結論は在籍中には見られないと思いますが、後輩たちがきっと実現してくれることを祈って、楽しみながら研究開発を続けていこうと思っています。



農林水産省畜産局畜産振興課 畜産技術室長  
**松本 隆志** (神Z22回)

小職の学生時代はバブル経済末期であったため、農学部であっても、学卒であれば銀行や保険会社等の金融、修卒であれば薬品会社が王道の就職先でした。しかしながら、小職は公務員試験を受験し、当時、面接のためのお車代は面接する会社持ちが当然で、囲い込みのためのハワイ研修なども報道される中、採用面接のため自費で東京に1泊旅行し、農林水産省に採用されました。

国家公務員は転勤が多いと言われますが、小職も御多分に洩れず、これまで転居だけでも9回に至ります。働き始めて8年くらい、すなわち係員や係長の頃は組織の仕事に慣れるための時期であることから、とにかく毎日深夜まで、2001年のBSEの発生の際は土日もなく、様々な雑務に追われていたという思い出くらいしかありません。私事では30歳のとき、結婚して長男にも恵まれました。

30歳を過ぎて、そろそろ県庁出向かなと思っていたら、副大臣秘書官となりました。政府要人の記者会見の際、見切れるかどうかの位置で映っている、いわゆるカバン持ちです。それまでは深夜までの業務が当たり前で、唯一の息抜きが昼食を兼ねた銀座辺りまでの散歩だったのですが、全く生活リズムが逆転し、朝は家を5時頃に出て、昼食時間も副大臣の公務に合わせる必要があるため、公務の合間を見て、農水省や議員会館の食堂に駆け込み、明朝に備えて20時までには帰宅するように努めました。

副大臣秘書官は1年間で終わり、次に課長補佐となり「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」の作成担当となりました。農業全体では「食料・農業・農村基本計画」があり、これに基づいて食料自給率向上等の施策が進められるのですが、これの畜産版となるものです。

次に独立行政法人のブエノスアイレス海外事務所勤務しました。当時、長男は幼稚園生で「ムシキング」が流行していたことから、「ヘラクレスオオカブトがいるぞ!!」の口説き文句が功を奏し、家族揃って赴任できました。現地では、各企業の駐在員の方々と仕事の関係のみならず、生活面での情報交換を行い、これまでとは異なるモノの見方を教わりました。

以降は、現職の畜産技術室の課長補佐と畜産技術に関わる独立行政法人に出向を繰り返し、畜産技術行政に携わってきました。いくつか具体的な事例を申し上げますと、

①東日本大震災では、避難した農家の牛が逃げ出し、離れ畜になってしまいました。牛は夜になると目視できないため、警戒区域内での作業に当た

る車両と衝突する事故が起きてしまいました。このため、当初は餌袋を振って、寄ってきた牛を捕えていたのですが、次第に牛も警戒するようになり、麻醉銃を用いて捕えることとなりました。麻醉銃の所持許可を得るために警察署、管理方法を知るために銃刀店と様々な方々から話を伺いながら、福島県職員の方々と一緒に捕獲を進めました。

②生乳生産に用いられる乳用牛は、雌が産まれれば後継牛になりますが、雄が産まれると肉用牛にしかありません。また、乳用牛雄の牛肉は、黒毛和種に比べ、安い価格になってしまうので、農家からすると乳用牛雄の誕生は有り難くないものです。このため、牛精液に含まれるX精子とY精子を物理的に分別し、X精子のみが含まれる性別別精液の利用が始まっていたことから、これに対する利用促進を図りました。

③畜産経営は家畜を相手にするため、周年拘束性の強い産業です。近年はロボット技術の発展により、自動的に搾乳したり、餌を与える機械装置が開発されています。このような技術進展を踏まえ、また、子供の入学式にも行けない産業に後継者が来る時代ではないことから、畜産農家における労働時間削減を図る機械装置の導入促進を図りました。

④アニマルウェルフェアは、家畜を快適な環境下で飼育することにより、家畜のストレスや疾病を減らす取組であることから、畜産農家に対して、その取組を推進しているところです。この取組とは別に進んでいた採卵鶏のアニマルウェルフェアに関する国際基準の策定プロセスにおいて、当時の農水相と養鶏業者が関わる事案が発生しました。このことについては、土日もなく、終日、深夜まで対応に追われるようになりました。

これまでの内容を読み返してみると、読者各位には馴染みの無い内容になっているようにも存じますが御容赦下さい。さて、ブエノスアイレス海外事務所勤務していた頃、「自宅—エレベーター—車—エレベーター—オフィス」という通勤スタイルで、かつ「牛肉を主食とした食生活」を送り、見事、肥育に成功したため、テニスを始めました。そのとき始めたテニスは転居による中断もありながら、今も続けています。学生時代は運動には全く興味がなかったのですが、今では良いストレス発散になっています。御依頼のありました六篠会会員各位の励みになるエピソードは書けませんが、これから社会にデビューしようとする方々やデビューした方々の何らかの参考になれば望外です。

## はばたくオオムラサキ



足立 隆昭 (兵A9回)

### はじめに

1938年生まれ。出生地は武庫郡御影町（現：東灘区）御影公会堂の近くで、戦火を逃れるため1942年水上郡春日部村（現：丹波市春日町）の父の実家に戻りました。小学校上級生になり手伝いの男衆に交じり、農作業をよく手伝いましたが水田の草取りと麦蒔きの畦づくりは辛かったです。1957年兵庫農科大学入学、農業昆虫学を専攻。1961年武田薬品工業（株）入社、1998年退社。翌年から社会奉仕の準備としてNPO法人シニア自然大学に通い充実した3年間を過ごし、第二の人生設計にソフランディングできました。

### 社会奉仕

2005年2月、世界的サル学者で人類学者・京都大学名誉教授 河合雅雄丹波の森公苑長から「森のあそび」の実現を要請され、丹波の森公苑の設立の経緯や丹波の森構想などを拝聴し感銘を受けました。極めつけは、創設時ケヤキの植栽計画を「生き物が棲む森づくり」を実現するため200本のエノキ並木（600m）と裏山にクスギ500本に変更植栽されたことでした。2005年4月から嘱託勤務となり丹波の森公苑活動支援部森づくり課に配属。オオムラサキ飼育展示と保全の3か年計画を立案し活動支援部および河合雅雄公苑長に説明・承認されました。1年目（2005年）、公苑内の棲息調査と北杜市オオムラサキセンターを始め札幌、関東、広島県の飼育展示の先進施設を視察。2年目、橿原昆虫館、神戸大学農学部、京都大学農学部の指導を受け丹波の森公苑での飼育可否を検討。3年目、飼育展示を開始しました。

- \* 2008年、丹波の森の住民にオオムラサキの認知・協力を得る視点から、昆虫を習い始める3年生をターゲットに小学校を訪問して飼育展示および学習支援を進めました。5年後2013年には40校中21校が飼育展示、7校が学習支援、の規模になり、現在も継続しています。
- \* 2008年7月7日に第1回放蝶会を開催、2017年7月7日第10回記念放蝶会は丹波の森住民が232名、阪神間から433名、計665名の来客があり盛大な放蝶会となりました。
- \* 2013年丹波の森の小学校に「里山空間をオオムラサキが舞う」イメージ絵画の募集を開始し、2020年は192点、2021年は186点の絵画が寄せられ、10月に丹波の森公苑で開催される森のフェスティバルにおいて展示と表彰式を行っています。
- \* 2011年には兵庫県教育委員会発行の3～4年生の道徳副読本（心がつむぐ兵庫のきずな一心きらめく）の1ページ目に「オオムラサキのたん生」が掲載され兵庫県内に配布が継続されています。
- \* 2011年兵庫丹波オオムラサキの会を設立発足。現在会員は107名です。
- \* 1993年から丹波の森(871km<sup>2</sup>)はウィーン13区(1250km<sup>2</sup>)と友好親善関係にあり、2009年7月ハインツ・ゲルス

トバッハ区長一行9名の来苑からオオムラサキ交流の機運が高まりました。2016年からシェーンブルン動物園（宮殿内）に越冬幼虫を持参、2019年に持参した個体群は当年越冬し次年も羽化(NHKウィーン支局取材、日本で放映)産卵まで成功しましたが孵化せず。コロナ禍で対応を中断していますが復活成功させ友好親善の懸け橋として貢献したいと願っています。日本大使館から日墺国交150年を記念して空調 Regulator 展示用ケージとロゴマーク入り解説パネルが贈呈されました。



(左写真参照)

### \*オオムラサキに関する課題の解明

2009年～2012年。オオムラサキ幼虫が食するのはエノキ (*Celtis sinensis*) の葉のみです。メスがエノキに産卵しなければ子孫を残すことは出来ません。その寄主選択に関わる食草(樹)成分について、京都大学農学部化学生態学：西田律夫教授(現：名誉教授)を

訪ねました。早速、院生の論文課題とされ、エノキ葉から700検体におよぶ抽出成分の分析から isovitexin が産卵刺激物質あることが確認されました。

2011年、ウィーンは厳冬のため神戸大学農学部昆虫分子科学：竹田真木生教授(現：名誉教授)に過冷却点の確認を依頼しました。-23.5℃を計測、凍死回避可能と判断しました。

丹波の森のオオムラサキは、丹波の森協会(丹波の森公苑)、研究機関、教育委員会、小学校、丹波環境パートナーシップ会議メンバー、企業、行政、メディアの協力を得て丹波の森および阪神間他の多くの人に認知されるレベルになったと感じています。

### おわりに

前記、河合雅雄先生は、去る5月14日篠山市のご自宅にて97歳でご逝去されました。謹んでご逝去を悼みご冥福をお祈り申し上げます。

私は、オオムラサキの取り組みを始め公私にわたり大変お世話になりました。今後もオオムラサキを生涯の友として、岩田久仁雄先生の言葉、「今」を行動規範として微力ながら社会奉仕に尽くしたいと思っています。

(注) 丹波の森

自然と人と文化が調和した地域(篠山市・丹波市871km<sup>2</sup>)を「丹波の森」と呼ぶ。

## 学友会だより



会長 坂井 信也

神戸大学学友会会長の坂井信也です。平素は全学同窓会の学友会活動にご支援、ご協力を賜り有難うございます。

学友会では、全学部から選出された新幹事のもとで、私、会長の坂井と六篠会の中村幹事長、KTCの谷口副会長の執行部によって、2年間の任期がスタートいたしました。

今年度の学友会独自の事業計画としては、『全学的な課題と単位同窓会の課題』についての改革・改善を行い、同窓会活動の活性化と大学支援に取り組むことにしています。

また、新しい藤澤学長の考えのもとで動き出す大学新執行部との連携により、新しい時代・新しい社会を見据えた大学の研究・教育活動、即ち、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」をめざす学長方針を支援するとともに、2022年の神戸大学創立120周年記念行事など活力ある事業活動に、神戸大学及び同窓生の総力を結集し、斬新な創造力を持って取り組むことにしています。

そこで、3つの分科会を設置し、下記の3テーマについて全学部の常任幹事によって議論を行い、整理し、同窓会の課題解決に向けて指針を策定することになっています。

### (第一分科会) 新規事業

活力ある学友会を構築するため、学友会のあり方についての活動指針の策定・提案並びに大学との連携、大学の支援など積極的に取り組む。

### (第二分科会) 新規事業

活力ある単位同窓会を構築するため、活動内容を調査し、先進事例を取り入れるなど単位同窓会活動指針を策定し・提案する。

### (第三分科会) 継続事業

若い世代の同窓生を同窓会に呼び戻すため、「若手の会」を組織化し、活力ある運営を目指す。

学友会は直接の会員をもっていませんので、単位同窓会全体の調整機能の役割を果たし、単位同窓会が纏まり、同窓生が結束することによって神戸大学としての力が発揮できると確信しています。

今後とも、同窓生の皆様との絆を大切に交流と連携を強め、強力な同窓会活動を行い、神戸大学を応援してまいりますので、皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

## 神戸大学クラブ (KUC) について



神戸大学クラブ (KUC) 運営委員長 進藤 政和

神戸大学クラブ (KUC) は1979年に発足した神戸大学学友会の専用クラブとして、1983年に神戸新聞会館内に設置されました。その後、阪神淡路大震災により移転を余儀なくされましたが、現在は神戸大学三木記念同窓会館内に事務所を置き、学部同窓会の枠を超え、講演会を年3回、見学会を年1回行っています。またゴルフ、囲碁、歴史を語る会などの同好会もあります。

今年度もコロナの影響を受け、活動の制限を余儀なくされましたが、11月の講演会から活動を再開しています。

### ・11月講演会 (済)

2021年11月18日 18時～ 楠公会館にて

神戸大学名誉教授 竹田真木生氏

(農学部農学研究科昆虫学)

「昆虫～この妖精たちに学ぶ」

### ・新春講演会

2022年1月20日 (木) 18時～ 楠公会館にて

藤澤新学長による講演

### ・見学会

2022年4月28日 (木) 神戸相楽園 つつじ鑑賞

### ・連絡先 (入会・参加・問い合わせ)

KUCへの入会やイベント参加等については、六篠会運営委員の王子善清氏、坂井永利氏、石賀暢一氏まで連絡をお願いします。



(2018.3.29例会『深江丸船上』にて)

# 関東支部総会並びに東京六甲クラブ



関東支部支部長 上山 維介 (神C3回)

去る10月8日、神戸大学東京六甲クラブにて第24回関東支部総会を開催しました。昨年と同様に会場とリモート参加のハイブリッド方式で行い、来賓に本部の中村直彦会長が、また大学からは土佐幸雄農学研究科長・農学部長が神戸からリモートで参加して頂き、総勢37名での総会となりました。中村会長からは、来年秋に催される神戸大学の創立120周年記念行事の紹介と、六篠会は、今後も大学と卒業生がワンチームとなって、大学と六篠会の発展に取り組んでいきたいと述べられ、土佐農学研究科長からは、他学部で先んじての対面講義の開始と、コロナワクチンの職域接種など、コロナ対策への積極的な取り組みのお話をいただきました。講演は、アクティブ・ギア(株)代表取締役の高野知司氏(神Z16回)から、「食の流通革命への挑戦」と題して、商社勤務時代の経験を活かされ、国内の又世界の農産物、畜産物を安心して消費者に届ける新しい食の流通への挑戦を熱く語って頂きました。その一つに大学と連携して、研究成果の農場生産物の流通に力強く取り組まれ、この11月に神戸大学ビーフを東京のレストランで食味できる話が披露されました。

今年のハイブリッド総会は、会場からの一方通行でなく、とくにマジョリティのリモート参加者の発言の機会を意識して取り入れ、昨年に比べてリモートと会場との一体感が生まれました。毎年会場となる東京六甲クラブは、コロナ渦対応としてハイブリッド式講演会や会議ができる機材が充実しており、関東支部総会においても欠かせない会場となっています。

「最後に、知人、友人を通じてこのような同窓会の開催を知って頂き、より多くの会員の皆様に参加いただけるよう努めたいと思います。より一層の皆様のご協力をお願いします。」

このたび「東京六甲クラブの歴史と活動」を同クラブの事務局長・野崎信氏に寄稿いただきましたので、ここに掲載します。

東京六甲クラブは関東における神戸大学卒業生の唯一の拠点として貴重な存在であり、50年を超える活動をしています。1966年10月に「東京凌霜クラブ」として、出光佐三先輩のご協力により日比谷帝劇ビルの出光興産本社内で発足し、1970年には、現在の地下2階に移りました。JR・地下鉄からの足回りが良く、60坪の広いスペースを保有し、多くの卒業生にご利用頂いています。2011年4月には「東京六甲クラブ」として新たなスタートを切り、2016年には50周年を祝い、記念祝賀会を初め、合同演奏会や講

演会、落語会、作品展、など数々の行事を開催しました。

クラブでは、新年互礼会・ビアパーティ・忘年会のクラブ行事に加え、定例講演会として年次ごと当番幹事が主催する特別火曜会講演会、各学部同窓会が主催する木曜会講演会、コンサート、若手の会、夢舞台講演会、映画会、など様々なイベントを年間50回ほど開催しています。2011年にはノーベル賞受賞の1年前で山中伸弥教授に「IPS細胞研究の進展」とした講演を開催し約200名の参加が有りました。

各年次同期会、各学部東京支部総会、運動部・文化部OB・OG会、企業の神戸大学会、出身高校・中学の同窓会に加えて、同好の士による囲碁などのサークル会、友人同士での集まり、など幅広くご利用頂いています。また、大学の東京オフィスとも連携しての卒業生交流会も行っています。残念ながら、コロナ禍により昨年3月から実質休業状態が続いていますが、WITHコロナとして、新たにZOOM講演会の開催をスタートしました。

コロナ収束にはまだ道のりが有るように思いますが、皆様のご利用は徐々に戻っています。是非一度、お立ち寄りください。詳しい内容はこちらのホームページをご参照下さい。

<https://www.rokko-club.jp/>

東京六甲クラブ

事務局長 経済学部1971年卒 野崎 信



会場参加者 (2021.10.8) 関東支部総会



リモート参加者 (2021.10.8) 関東支部総会



東京六甲クラブ

# 研究室紹介 I

資源生命科学専攻応用植物学講座園芸植物繁殖学教育研究分野

教授 **安田 剛志**  
准教授 **藤本 龍**

園芸植物繁殖学研究室は現在、教授（安田剛志）と准教授（藤本龍）の2名の教員で運営しています。メンバーは教員に加えて、博士課程学生3名、修士課程学生3名、学部4年生5名、3年生3名の合計14名です。

園芸植物繁殖学研究室では、主に果樹のナシとアブラナ科野菜（ハクサイ、コマツナなど）を用いて、繁殖・育種において重要な形質に着目し、細胞組織学的・分子生物学的・遺伝学的な研究手法を用いて、分子機構の解明を目標とした研究を展開しています。さらに得られた知見を応用することで、品種育成へ分子育種を導入することにも尽力しています。

## 【ナシ（梨）の自家不和合性の分子機構の解明】

ナシの花は両性花で、雄しべでつくられた花粉（自己花粉）が雌しべに受粉するのに、ナシの樹を1本だけ植えておいても果実はなりません。これは、自己花粉の花粉管伸長が雌しべの中で阻害されることで、受精が起こらず、種子ができないからです。この自家受精抑制の現象は自家不和合性と呼ばれ、植物が近縁交雑を防ぎ、良い子孫を残すために獲得したと考えられています。しかし、自家不和合性は果実生産にとっては邪魔者になり、生産者は限られた開花期間内に異なる品種の花粉を人工受粉しなければなりません。自家不和合性は雌しべと花粉間で自己・非自己の認識反応であり、興味深い生命現象です。当研究室では、六甲台キャンパスと附属食資源教育研究センター（加西市）の果樹園で研究材料のナシを栽培管理しています。細胞組織学的・分子遺伝学的なアプローチを用いて、自家不和合性の自己認識機構の解明を目指して研究を進めています。



ナシの受粉作業の様子

## 【アブラナ科野菜の雑種強勢、春化、耐病性の分子機構の解明】

ハクサイやコマツナなどのアブラナ科野菜の大半がF<sub>1</sub>品種です。これは、ある特定の両親系統を掛け合わせたF<sub>1</sub>種子を商品として取り扱います。両親系統を掛け合わせるといった手間がかかる作業をなぜ行うか？といいますが、F<sub>1</sub>は生育、収量において、両親系統よりも優れる「雑種強勢」を発揮するからです。この雑種強勢の特性を利用して、アブラナ科野菜だけではなく、多くの作物種でF<sub>1</sub>品種が育成されていますが、どのような親の組み合わせが最適か？など、雑種強勢の分子機構はどの植物種でも未だ明らかとなっておりません。当研究室では、遺伝学的な研究に加え、DNAの

メチル化などの遺伝子修飾にも着目したエピジェネティックなアプローチ、更にはモデル植物のシロイヌナズナの研究も加え、雑種強勢の分子機構の解明を目指して研究を進めています。また、ハクサイやコマツナなどの葉物野菜は、栽培中に花成が誘導されると品質の低下が起こるため、晩抽性品種が育成されています。さらに、品種としては当然、耐病性が重要となります。これら育種上重要な形質の鍵遺伝子を単離し、DNAを指標に形質を選抜するDNAマーカー選抜系の開発にも取り組んでいます。最近、DNAマーカー選抜により、複数の病害抵抗性遺伝子を保有した新しい品種の開発にも成功しています。



白菜の収穫風景

## 【研究生活】

ここ数年は、留学生が常に研究室に在籍し、また、修士課程の学生の何名かは、共同研究先であるオーストラリアに2～6ヶ月の短期留学をしており、国際意識の高い学生が多く在籍しています。研究面においても意欲が高く、修士課程の学生は自身で試行錯誤しながら研究を行える学生が多く在籍し、筆頭著者として国際誌に論文を発表しています。



集合写真

# 研究室紹介Ⅱ

生命機能科学専攻応用生命化学講座植物機能化学教育研究分野

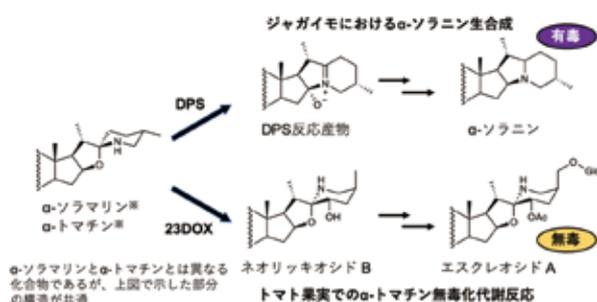
教授 **杉本 幸裕**  
 准教授 **水谷 正治**  
 准教授 **山内 靖雄** (神C22回修20回博後1996)

卒業生のみなさん、ご活躍のことと思います。研究室紹介を寄稿するのは15年ぶりです。振り返ってみますと、2007年4月に大学院農学研究科の発足に伴い、教育研究分野名を「植物資源利用化学」から「植物機能化学」に変更しました。同じ時期に学舎が改修され研究室はE棟4階から5階に移りました。2008年3月に脇内成昭先生が定年退職され、2009年1月に水谷が着任しました。以来、杉本、水谷、山内で研究室を切り盛りしながら、教育と研究を担ってきました。

コロナ禍のため2年近く密になることが憚られる状況が続いています。学会はほぼ全てオンライン開催となり、研究室でも恒例の寿司会さえ見送りが続いています。そのため、手許にある最新のメンバー紹介資料は2019年夏に卒業アルバム用に撮った集合写真です。年度によって多少の増減はありますが、ここ2年は、ポストク3名、技術補佐員1名、事務補佐員1名、博士後期課程学生1名、博士前期課程学生12-13名、卒論学生7名、総勢約30名で活動を続けています。

これまでに六條会報に掲載された記事から研究活動の一端をお伝えできているかもしれません。2016年度には、博士前期課程を修了した藤岡聖(2019年3月博士号取得)が学術奨励賞をいただきました。2019年度には杉本が論文賞、山内が業績賞を、2020年度には若林孝俊博士が論文賞をいただきました。業績賞は日本農芸化学会から「作物の高温体制を高める揮発性バイオスティミュラント「すずみどり」の開発」として技術賞を授与されたことが評価されての受賞です。

一連の研究活動は、「ストライガ防除による食料安全保障と貧困克服」(JICA/JST SATREPS 2016-2022)、「枝分かれ抑制ホルモンの実体解明を目指すストリゴラクトンBC環形成機構の解明」(科研費2019-2021)、「ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発」(戦略的プロジェクト2019-2023)、「ジャガイモシストセンチュウに対する新奇孵化促進物質の同定と生合成の解明」(科研費2021-2023)、揮発性化合物を用いた植物のストレス耐性能制御技術の開発(産学連携費2017-2021)をはじめとする数々のプロジェクトによって支えられています。



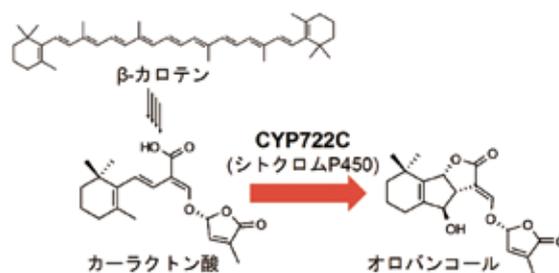
(Akiyama et al., Nat. Commun. 2021; 12: 1300)



集合写真

研究室で注力している課題は、化合物としてはストリゴラクトン、シストセンチュウ孵化促進物質、ステロイドグリコアルカロイド、緑の香りを中心としており、現象としては、根寄生植物の生活環調節、シストセンチュウ抵抗性、ナス科植物の生産する有毒アルカロイドの生合成、植物のストレス応答などに注目しています。当研究室が中心となって得られた知見をまとめた論文は、Nature Plants (Fujioka et al., 2019)、Science Advances (Wakabayashi et al., 2019)、Nature Communications (Akiyama et al., 2021)などの著名な国際誌に掲載され、神戸大学ホームページや新聞の科学欄等でも紹介されてきました。この先も成果が目に残った際には、研究室で過ごした日々を思い出しながら研究の進捗を感じていただけたらと思います。

良質の成果を産み出し、それが評価されて支援が得られ、さらに良質の成果を産み出すという好循環は、これまでに研究室で一緒に活動したみなさんと築いてきた実績の上に成り立っています。在籍しているみなさんには、研究活動を楽しみながら、それぞれの目標に向かって研究室を最大限に利用していただきたいと思っています。卒業生のみなさんには、機会を見つけて訪ねては世代を超えた交流の場として研究室を活用していただけることを期待しています。コロナ禍が収束して気兼ねなく交流できる日常が戻ってくることを心待ちにしています。



$\beta$ -カロテンからオロバンコールに至る生合成

(Wakabayashi et al., Sci. Adv. 2019; 5: eaax9067)

# 第15回ホームカミングデイ報告

理事（渉外/ホームカミングデイ） **新岡 史朗** (神P11回)  
理事（ホームカミングデイ） **山田 健次** (神Z12回)

神戸大学ホームカミングデイ（HCD）は、卒業生が母校を訪れ、同級生や恩師との旧交を温めるとともに大学の「今」を知る機会として毎年10月の最終土曜日に開催されています。

第15回目となる本年度のHCDの企画検討は、コロナ感染防止の緊急事態宣言発令中の5月19日、リモートでの「HCDプロジェクト委員会」により行われました。

昨年度のHCDはコロナ禍により中止でした。このため、大学事務局からは、今年度は可能な限り実開催を目指したいとして、厳しい状況の中ではあるがその時点の案として、感染対策を講じたうえで、「対面形式」と「オンライン形式」を併用したハイブリッド形式で記念式典を行うとの提案がありました。そして、9月に感染状況等から最終判断することとし、各学部企画については学部同窓会と調整の上、ハイブリッドまたはオンラインによる企画を検討いただきたい旨の依頼がありました。

農学部企画は、学部事務局と中村会長はじめ六篠会役員とのリモートでの意見交換の結果、当日はZoomによるライブ配信及びHCD終了後、収録した動画を農学研究科ホームページに1ヶ月程度公開することになりました。

その後、9月30日になりコロナ感染症の状況を踏まえ、大学の最終判断として全学イベントは対面開催を中止し、オンライン形式のみとなりました。

開催までの経過説明が長くなりましたが、多くの関係者がコロナ禍の中、努力した結果のライブ配信とその後のオンデマンド配信でした。

10月30日、まず、全学の記念式典は、出光佐三記念六甲台講堂を会場に、10時30分から開始。記念式典の司会は、フリーアナウンサーの中島亜紀氏（文学部1998年卒）が務められました。藤澤正人学長挨拶と坂井信也学友会会長挨拶があり、講演会は、元NHKアナウンサーの住田功一氏（経営学部1983年卒）による「阪神・淡路大震災を若い世代に語り継ぐ」でした。

講演後、神戸大学ビジョン発信プログラム「未来につ

なが神戸大学」の紹介、グローバルチャレンジプログラムに参加した学生の体験発表、学生ボランティアの活動報告などがありました。

農学部ホームカミングデイは、13時30分に竹中慎治先生の司会で開会し、土佐幸雄先生による学部長挨拶、中村直彦会長の同窓会長挨拶があり、その後、白井康仁先生から「コロナ禍における農学部の現状報告」として学生たちの“今”が語られました。

2020年春の卒業式や入学式の中止、学生の自宅待機対応、その後のオンライン講義の開始や実習・実験のみ対面によるハイブリッド型で授業実施などが詳しく説明されました。苦労や課題がある中、海外の提携大学による英語プレゼンテーション実習ではオンライン実施で参加者増加のメリットがあるなど新たな可能性も報告されました。

その後、六篠賞授賞式と受賞者による講演が行われました。今年度の受賞者は笹崎晋史准教授と深山浩准教授（写真のとおり）です。講演は昨年HCDが中止になった関係で昨年度分も合わせ行われました。

まず、昨年度の受賞者から同志社女子大学西村公雄特任教授による「鶏肉タンパク質がもたらす加工・調理上の問題点と機能改変に関する研究」。次に、今年度の受賞者から笹崎晋史准教授による「神戸ビーフの肉質改良に向けてのDNAマーカー開発」でした。

お二人とも別会場からのオンラインによるリモート報告でした。それぞれの学会賞を受賞した素晴らしい研究成果で、今後のさらなるご活躍を期待します。

以上が2021年10月30日に行われた神戸大学第15回HCDの概要です。セレモニーや講演はZoomによるライブ配信とその後1カ月の録画配信が行われました。筆者は関係者として農学部C101で立ち会いました。無観客の中での実施はさみしいものがありましたが、事務局をはじめ関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げるとともに、1日も早くコロナ感染が本格的終息を迎え、来年こそは皆が一堂に会する実開催を心から祈念いたします。



ホームカミングデイ農学部会場（C101）

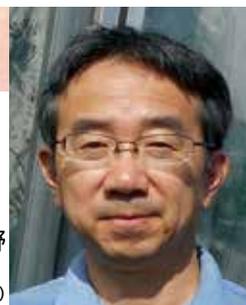


向かって右から深山准教授・中村会長・笹崎准教授

# 六篠賞

## 六篠論文賞

資源生命科学専攻応用植物学講座熱帯有用植物学教育研究分野  
准教授 **深山 浩** (神A24回修22回博後1998)



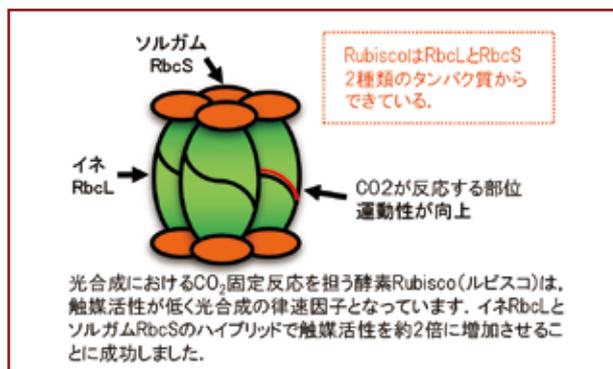
この度は六篠論文賞を賜り誠に光栄に存じます。選考に関わられた六篠会関係者の皆様に感謝申し上げます。受賞対象となりました論文は、光合成においてCO<sub>2</sub>固定反応を担うRubiscoという酵素の触媒反応の改良に関する研究成果を発表したものです。論文のタイトルは“Hybrid Rubisco with Complete Replacement of Rice Rubisco Small Subunits by Sorghum Counterparts Confers C4-Plant-like High Catalytic Activity”でMolecular Plant誌の2020年11月号に掲載されました。Molecular Plant誌は比較的新しい雑誌ですが、自然科学系で有名な米科学雑誌Cellの関連誌です。2020年のインパクトファクターは12.084で、植物系ではトップクラスの雑誌です。

Rubiscoは触媒活性が低く、多くの植物は葉に多量に蓄積させることで、その欠点を補っています。これが光合成や作物生産のボトルネックになっています。私はRubiscoの触媒活性を高めてRubiscoの量を減らすことができれば、作物の生産性を改良できるのではないかと考えました。植物の中でもイネのRubiscoは特に触媒速度が低かったので、イネを研究材料に選びました。最初に担当してくれた石川智恵さんは、様々な植物のRubiscoの触媒活性とアミノ酸配列を解析して、ソルガムのRubiscoがイネへの導入に適していると予測しました。RubiscoはRbcLとRbcSの2種類のタンパク質で出来ています。触媒部位はRbcLにあるので、RbcLの導入が重要と考えられました。RbcLは核ではなく葉緑体ゲノムに存在する遺伝子で、ソルガムRbcLをイネRbcLと相同組換えで入れ換える戦略で進めました。ただ、この方法はイネでは成功例がほとんどなく、石川さんは博士課程まで進んで、大部分の時間をこの実験に費やしてくれたにも関わらず成功しませんでした。当初はRbcSを導入する予定にしていなかったのですが、導入することにしました。ソルガムRbcSの導入はスムーズに進み、半分以上のRbcSがソルガムRbcSに置き換わったRubisco (Rubiscoは8個のRbcSとRbcLで出来ている)をイネで発現させることに成功しました。期待していなかったのですが、Rubisco活性は約1.5倍に増加しました。これほどRubisco活性を増加させた報告は無く、私も石川さんも驚きましたが、手ごたえのある成果が出て喜びも大きかったです。

次に問題になるのは、組換えイネに残ったイネのRbcS遺伝子です。イネは光合成に関係するRbcS遺伝子を4つ持っています。これらの働きを弱めるために、RNAi法によるRbcSの発現抑制を行いました。RNAi法ではイネRbcSの発現抑制は完全ではなく、肝心のソルガムRbcSも減少してしまいました。ちょうどその頃、CRISPR/Cas9法(ゲノム編集)がイネでも可能となって来ていました。イネのCRISPR/Cas9法の開発を進めていた農業生物資源研究所の遠藤真咲博士の協力を得て、

イネRbcSを機能欠損させることに取り組みました。4つのうちの1つをなかなか欠損させられず苦労しましたが、山本滉樹人君とその後実験を引き継いだ塩見慶太君が4つのイネRbcSを欠損してソルガムRbcSだけを発現するイネの作出に成功してくれました。

この完全にソルガムRbcSに置き換わったハイブリッドRubiscoに関する研究結果をまとめたのが今回の受賞対象となった論文です。ハイブリッドRubiscoでは触媒活性が約2倍に増加し、光合成能力も高くなりました。また、立命館大学の松村浩由教授の協力によりX線結晶構造解析を行い、ハイブリッドRubiscoでは触媒部位の運動性が高くなっていることを示唆する結果も得ることが出来ました(下図)。



これらの結果は、光合成の改良や作物の生産性を考える上で重要な発見であると考えられました。松村先生と相談し、最初は2019年9月にPNASに投稿しました。審査員から多くの指摘や追加実験を要求され、我々なりに対応して再投稿しましたが、結果は不採択となりました。私も松村先生も行けるという手応えだったので落胆は大きかったです。そこからは門前払いの連続でした。それなりのレベルの雑誌では、編集者が原稿をチェックし、審査に値しないと判断されると、投稿してから数日で不採択のメールが届きます。Nature Plants, Nature Communications, Communications Biology, PLOS Biology, Current Biology, Cell Reportsと不採択が続きました。コロナ第2波で混乱していた2020年3月にMolecular Plantsに投稿しました。今度は投稿後に音沙汰がなく、コロナ禍で業務がストップしている可能性を心配して問い合わせしてみると、審査中であるとの回答でした。その後、追加実験も要求されましたが、2020年8月ようやく論文が受理されました。最初の投稿から約1年かかり、喜びというよりも、それなりの雑誌に受理されてほっとしたという感覚でした。

現在、修士課程の竹谷友里さん、学部生の大河世生君と、Rubiscoの研究をさらに進めています。最後になりますが、直接Rubiscoの研究に携わった学生以外にも、多くの方々の協力によって研究を進めることが出来ました。心より感謝申し上げます。

## 六篠業績賞

## 兵庫県黒毛和種集団における肉質関連遺伝子の同定

資源生命科学専攻応用動物学講座動物遺伝育種学教育研究分野

准教授 笹崎 晋史 (神AS31回博前29回)



この度は、栄えある六篠業績賞を賜り誠に光栄に存じます。中村直彦会長をはじめ選考に関わられた六篠会の皆様に謹んで御礼申し上げます。受賞の対象となった研究業績は、2021年度公益社団法人日本畜産学会の学会賞を「兵庫県黒毛和種集団における肉質関連遺伝子の同定」で受賞したことです。この研究の概要について以下にご紹介させていただきます。

家畜動物において経済形質と関連するDNA多型(DNAの塩基配列の違い)は、育種改良における指標として有用な情報となる。我国固有の肉用種である黒毛和種においても2000年頃から盛んにDNAの解析が行われるようになり、次々と経済形質に影響する多型が報告されるようになった。我々の研究室においても、脂肪酸組成に関連するものとしてSCD遺伝子、SREBP1遺伝子、FASN遺伝子、LEP遺伝子、UTS2R遺伝子、STARD3遺伝子、枝肉重量に関わるPLAG1遺伝子、皮下脂肪厚やロース芯面積に関するものとしてDGAT1遺伝子などを報告してきた。しかしながらこれらのマーカーの効果は集団ごとに異なる可能性が考えられるため、各集団における確認が必要である。我々はまず、SCD遺伝子、SREBP1遺伝子、FASN遺伝子に対し、兵庫県黒毛和種539頭を用いてその遺伝子頻度および産肉形質に対する効果について調査した。遺伝子型判定の結果、マイナーアレル頻度はSCDで0.04、SREBP1で0.322、FASNで0.09、であった。過去の報告では、優良アレル頻度はSCDで0.594、FASNで0.670であり、兵庫県集団では優良アレル頻度が高く、これまでの選抜の影響が原因として示唆された。一方SREBP1ではその選抜の影響が少ないことが伺えたが、過去の報告と本研究の結果とは優良アレルが逆転していた。以上のように、兵庫県集団がその他の集団とは異なった遺伝構造をとっていることが示唆された。そこで兵庫県に特有の新規QTL探索を行うため、兵庫県黒毛和種集団1836頭を用いてDNA-pooling法に基づくゲノムワイド関連解析(GWAS)を行った。対象形質は脂肪交雑において指標の一つとなるロース脂肪割合(ロース芯における脂肪の占める面積割合)および脂肪酸組成(特にオレイン酸含有率)とした。

## 【ロース脂肪割合】

GWAS解析の結果、BTA7において有意な関連を示すSNPを検出した。次にこの領域に存在する原因遺伝子を同定するため、GWASにおける有意SNP周辺(10-30Mb)を候補領域とし、Pooling GWASに用いた200個体から8個体(上下各4個体)を対象に全ゲノムリシーケンスを行い、対象領域に存在する有力な候補

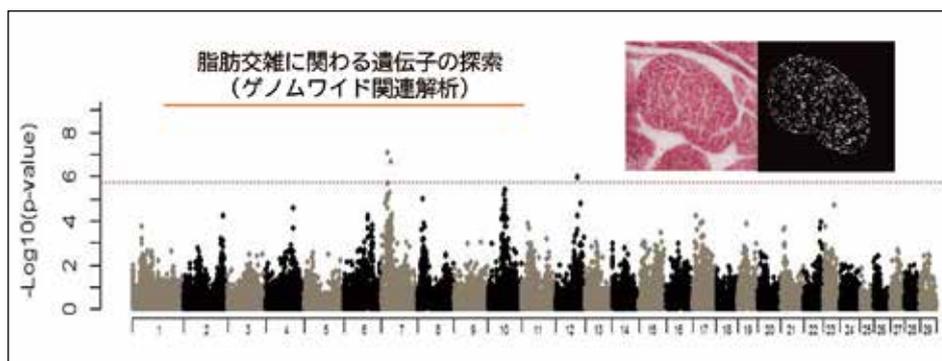
多型の網羅的検出を行った。ゲノムリシーケンスの結果、候補領域内に127,090個の多型が検出された。そのうち31,945個が遺伝子内多型であった。さらに我々は、GWAS解析の結果最も有意性の高かったSNPとのLDを考慮し、6,044個の多型に絞り込んだ。また、それら多型が位置する179遺伝子について遺伝子の機能を調査し、最終的に8遺伝子170多型に着目した。本研究では、それらのうち唯一のアミノ酸置換であったSLC27A6遺伝子のK81M多型について、黒毛和種集団(n=904)を用いて効果の検証を行った。結果、SLC27A6 K81M(p=0.0009)はGWASで最も有意な値を示したSNP(p=0.0049)よりも低いP値を示し、有力な候補多型の一つであることが示唆された。

## 【オレイン酸含有率】

GWAS解析の結果、第9番染色体および第14番染色体に有力な候補領域を同定した。同定されたQTL領域はこれまでどの集団でも報告がされておらず、兵庫県に特有の新規遺伝子であることが示唆された。ロース脂肪割合と同様に、候補多型を探索するためオレイン酸含有率の高い個体および低い個体の8個体に対して全ゲノムリシーケンス解析を実施し、多型の網羅的検出を行った。候補領域内に合計で39,658多型を検出した。さらに上位下位グループ間のアレルの違いに基づいて、24遺伝子に位置する1,993多型に候補を絞り込んだ。続いてそれらの中から脂肪酸代謝に関わる遺伝子として、CYB5R4遺伝子のc.\*349G>T多型を選出した。また黒毛和種集団(n=899)においてそれらのC18:1に対する効果を検証した結果、CYB5R4 c.\*349G>T(p=0.0075)はGWASで最も有意な値を示したSNP(p=0.0080)よりも低いP値を示し、有力なDNAマーカーとなることが示唆された。

これらの成果は、各形質における責任遺伝子の同定につながり、兵庫県以外の集団における新規マーカーの開発にも貢献するものと期待される。

上記の研究成果は、神戸大学内外の多くの共同研究者のご協力、神戸大学農学部動物遺伝育種学研究室における10数年にもわたる学生さんの努力の賜物です。この場をお借りして、受賞を報告させていただくと共に心より御礼申し上げます。



## 六篠学術奨励賞

## 六篠学術奨励賞を受賞して

資源生命科学専攻応用植物学講座園芸植物繁殖学教育研究分野

宮路 直実

この度は名誉ある六篠学術奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。このような身に余る光栄は、私一人の力では決して得られなかったと考えております。園芸植物繁殖学研究室の藤本龍准教授をはじめ、学位論文研究にご指導、ご協力賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。また、家族をはじめ、研究生生活を支えてくださいました方々にも深く感謝申し上げます。皆様のお力添えにより、これまで諦めることなく研究に専念することができました。

私は研究室に配属された学部3年生から博士後期課程までの約6年間、ハクサイやコマツナなどのアブラナ科野菜の白さび病抵抗性遺伝子を単離することを目的に研究を行ってまいりました。白さび病は葉に白い病斑ができる病害で、白さび病の蔓延は野菜の品質低下や収量減をもたらします。病害の予防法として農薬の散布や病害抵抗性品種の利用などが挙げられますが、特に抵抗性品種の利用は有効であると言われております。現在、白さび病抵抗性品種として販売されている品種は数多くありませんが、その一因としましては抵抗性遺伝子が同定されておらず抵抗性品種の育種に長い年月がかかることが

挙げられると思います。抵抗性遺伝子が同定されDNAマーカーが開発されますと、育種が効率化され新品種の完成までにかかる年月を短縮できると期待されます。そこで白さび病抵抗性遺伝子を同定することを目的として研究を始めるに至りました。本研究は植物材料の選定や接種試験の条件設定から実験を始めましたが、白さび病抵抗性遺伝子を単離しDNAマーカーを開発することに成功しました。なお、本研究を進めるにあたり、白さび病菌の接種試験には植物病理学研究室の皆様にご指導、ご協力いただきましたことを深謝いたします。

私は現在、学部生時代からお世話になりました神戸大学を離れ、岩手生物工学研究センターで研究員としてイネいもち病抵抗性に関する研究に取り組んでおります。まだまだ慣れない環境ではありますが、神戸大学農学部の名に恥じないように日々精進しております。六篠会ならびに農学部の皆様におかれましては更なるご発展とご成功をお祈りするとともに、後進へのご支援ならびにご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 六篠学術奨励賞

## 六篠学術奨励賞を受賞して

資源生命科学専攻応用動物学講座動物分子形態機能学教育研究分野

前田 瑞稀

この度は名誉ある六篠学術奨励賞を受賞を賜り、誠に光栄に思います。この受賞に際し、動物分子形態機能学教室の星信彦教授をはじめ、研究指導に携わって頂いた先生方と研究室の皆様、日々の生活を支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

私は3年間、ネオニコチノイド農薬という世界で広く使用されている農薬の次世代への影響を研究していました。農薬の残留基準値や1日摂取許容量は、実験動物を用いた毒性試験の結果で定められた「無毒性量」から算出されます。しかし、この毒性試験に発達神経毒性は必須の検討項目となっております。私はそこに着目し、妊娠マウスに農薬を投与し、その産子に対して様々な毒性評価を行いました。この研究を通して、現行の無毒性量の評価方法の見直しの必要性を示し、食の安全に貢献することを目標としていました。振り返ってみますと、この研究室生活を通して、大きく2つのことを学ぶことができたと感じております。1つめは、物事を始める際に、土台を固める事の大切さです。研究室に入りたてで右も

左も分からない時期に、ひとまず先輩が行っていた手法を使ってみようと、自分の研究との差異なども深く考えず行い、後で痛い目に合いました。なぜその方法を使うのか、なぜそれでなければならないのか、その「なぜ？」を繰り返していくことがより良い結果を導くと痛感しました。しかし、その「なぜ？」の答えを見つけることは容易ではありません。自分ひとりでは偏った考えになってしまうこともありました。そんな時には教授にご意見を頂いたり、研究室の方々とディスカッションを行うことで答えを出せたり、自分だけでは思いつかなかった新たな見解を見つけることができました。この経験から私は周りの力を頼る事の大切さを知りました。これが2つ目に学んだことです。私はこの原稿を書かせて頂いている時点で、社会にでて働いております。研究とは関係の無い面においても、研究を通して身に着けた力は心の大きな支えとなっております。最後になりますが、このようなよき環境を与えてくれたすべての方々に改めて感謝申し上げます。

## 六篠学術奨励賞

### 六篠学術奨励賞を受賞して

食料共生システム学専攻食料環境経済学講座農業農村経営学教育研究分野

津田 有梨花

この度、六篠学術奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。このような受賞の機会をいただくにあたり、農業農村経営学研究室の中塚雅也教授をはじめ、研究のご指導・ご支援をいただきました皆様に深く御礼申し上げます。

私は2年間、「小規模醤油製造業の課題と地域共存戦略」というテーマの元、兵庫県内の醤油製造業者・組合へのヒアリング調査を中心とした研究を行いました。テーマ設定にあたっては、地域の食文化を形成してきた調味料製造業の廃業が続く状況に対する「地域の魅力ある文化が失われていく」という危機感がありました。研究を進める中では、文献や複数の事業者の声を結びつけ、整理し、自分の想いや主張が伝わるよう図や言葉にまとめていく過程で苦労しました。ホワイトボードを前に頭を抱えながら先生と何度も議論をした光景が思い返されます。拘りが強く、なかなか納得いく答えに辿り着けない私に粘り強く付き合ってくくださった先生には本当に感謝しています。

また、調査に協力頂いた事業者の方に頑張っねと言われたときや修士論文、投稿論文を書き上げたときなど、この文章を書くに際し、2年間の様々な場面を思い返し、充実した満足のいく2年であったことを再認識しまし

た。研究外でも、ゼミ活動や地域連携センターのスタッフとしての活動を通じ、日本の農業農村についての学びを深めることができました。これらの経験が、卒業後も日本の食に貢献していきたいという想いに繋がっています。

現在は、政府系機関で農林水産業者に対して融資やコンサルティングを行っています。初任地となった熊本県は農林水産業がとて盛んです。就職活動から入社後も、すべてが想像していなかった形になりましたが、先輩方に支えていただきながら仕事にも慣れてきたところです。既に野菜、畜産、酪農、茶、酒、調味料などなど現場を見る機会も本当に多くあり、環境に恵まれていると感じています。嬉しいことに、研究を活かした仕事の機会もいただき、今でも醤油製造業に関わることができています。また、熊本県は震災や豪雨など災害も多く、コロナと併せて三重苦という言葉もよく耳にします。それでもなお前を向く事業者に、いち早く力になりたいと思っています。

今後も6年間の学びを活かし、日本や地域の食を支える人々の力になれるよう精進して参ります。

## 六篠学生賞

### 六篠学生賞を受賞して

生命機能科学科環境生物学コース

柏木 結

この度はこのような栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。4年間ご指導いただいた先生方をはじめ、大学生活を支えてくださった多くの方々へ心より感謝申し上げます。

私は、生きる上で欠かすことのできない「食」に関係する分野について、幅広く学びたいという思いから本学農学部へ入学いたしました。講義の内容は専門性が高く、理解するのが大変なこともありましたが、「食」から広がる多様な分野それぞれにおける課題や取り組み、未知の領域の面白さ、研究成果などのお話を、その道に長く携わってこられた先生方から聞くことができるというのはとても刺激があり興味深く、まさに大学でしか得られない経験であったと感じています。

また、同コースをはじめとする友人達と、ありとあらゆる場面で協力し合い、切磋琢磨できたことも、大学生活を豊かで楽しいものにしてくれました。所属する研究室ではイネ等の重要な作物に感染する植物病原菌の感染過程について研究してきました。

この菌の防除は、将来の世界人口増加に伴って求められる食糧生産の増加において課題の1つである、作物収穫量減少の阻止に寄与しています。自分の研究成果が世界における「食」に貢献できることに研究の重要性を感じながら取り組みました。研究を行うにおいて学ぶべきことは多く、長い試行錯誤に先が見えず悩むときもありましたが、先生方や先輩方に多くの助言をいただき、友人に日々の研究室生活を支えられ、充実した気持ちで卒業を迎えることができました。

現在は大学院に進学し、卒業研究と同テーマでより深い理解をするべく研究を続けています。研究活動では思うような成果が得られず困難な場面も多々ありますが、学部で学んだことを活かし、粘り強く取り組むことを心がけています。

今後もいただいた賞を励みに、常に学びの姿勢と周りへの感謝を忘れず、より一層精進して参りたいと思います。

## 六篠学生賞

## 六篠学生賞を受賞して

食料環境システム学科生産環境工学コース

川端 孝典

この度は六篠学生賞を頂き、誠にありがとうございます。生産環境工学コースの先生方をはじめ、これまで支えていただいた皆様に感謝申し上げます。

私は高校生の時に農業機械・水・環境などに興味があり、本コースへの進学を決心しました。本コースでは大学2年時に土・水・施設を対象として研究を行う「地域環境工学プログラム」と、食料生産システムや生物資源循環システムについて研究する「バイオシステム工学プログラム」へ分属されます。どちらへ進むか悩みましたが、私は授業「実践農学入門」や農業ボランティアサークル「にしき恋」において実際に農作業を行うことで、農業機械に対する興味が大きくなり、バイオシステム工学プログラムを専攻いたしました。

本コースでは工学を中心に学びますが、高校で物理を選択しなかった私にとっては難しい授業が多くありました。投げ出したくなるような時もありましたが、友人らと協力して課題に取り組んだり、教えあったりすることで乗り越えることができました。また、先生方は授業時間外にも快く質問に答えてくださったので、理解が深まりました。このような恵まれた環境で勉強できたことを

非常に嬉しく思います。

大学では思う存分、好きな勉強をしようと思っていた私は、TOEIC・簿記・中小企業診断士などに挑戦しました。資格を取ることもよりも、新しいことを学ぶことが純粋に面白く、いつの日か学んだ知識が意外な場面で役立つ時が来るのではないかと楽しみです。振り返れば、非常に忙しくも充実した4年間を過ごすことができましたと思います。

現在は神戸大学大学院農学研究科に進学し、生物生産機械工学研究室にて水稲移植栽培で使用される播種機(種まき機)の研究を行っています。高性能な播種機を開発することで、低コストで省力的な稲作の実現を目指しています。研究においては機械のみならず、植物の知識も必要となりますが、学部時代に広く学んだことが様々な場面で活かされています。また、実験を行うと計画時には予測できなかったことが起き、期待通りの結果を得られないことも多く、研究の難しさを実感しています。一方で、その度に対策を考えて試行錯誤を重ねることが楽しく思います。残された学生生活も少しとなりましたが、今後も全力で研究活動に取り組んで参ります。

## 六篠学生賞

## 六篠学生賞を受賞して

生命機能科学科応用生命化学コース

小林 航平

この度はこのような名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。日頃よりご指導、ご鞭撻くださった応用生命化学コースの先生方をはじめ、学生生活を支えていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

振り返るとあっという間の4年間でした。大学生活ではサークル活動やアルバイトなど様々なことに精力的に取り組みましたが、やはり応用生命化学コースの皆と過ごした日々が一番色濃く心に残っています。大学には学級という枠組みがないため友人関係が希薄になりがちであるというイメージがあり、入学当初はとても不安でした。しかし、少人数かつ実験や実習科目が多いという農学部の特徴のためか、毎日のように顔を合わせ、楽しい時間も苦しい時間もともに過ごしてきた同コース40名はかけがえのない仲間になりました。時に助け合い、時に刺激し合える、そんな良き友人やライバルの存在は私の原動力です。また毎年秋に開催される農学部運動会を筆頭に、他コースや他学年との交流の機会も多く、このようなアットホームな学部で4年間を過ごすことができるととても幸せに思います。

私が農学という分野に初めて興味を持ったのは遙か昔、小学生の頃まで遡ります。地域学習の一環で我が故郷(兵

庫県西宮市)が企業と共同開発したエンジェルス・イヤリングという花と出会い、そこで品種改良という言葉を知りました。当時まだ幼い私には原理や有用性はちんぷんかんぷんでしたが、品種改良にロマンを感じて「いつか作るんだ」と赤や青のひまわりを描いては周囲にセンスがないと笑われたものです。それから10数年の時を経て、こうして神戸大学農学部で生命機能の神秘について学んでいると考えると感慨深いものがあります。

そんな幼い頃からの夢は、大学での様々な講義や実習を通して少しずつ形を変え、現在は同大学院の天然有機分子化学研究室で有機化学的な観点から生命機能の謎を解明すべく、日々研究に取り組んでいます。実験は座学とは異なり一筋縄ではいかないことも多く、研究というものの難しさやもどかしさに苦しむ一方で、だからこそ上手くいったときの嬉しさや新しいものを探究する楽しさも感じます。困難な状況であっても同期の仲間と手を取り合い先生方や先輩方にお力添えいただきながら、生命科学の発展の一助となる成果が出せるよう、研究活動に励んでいく所存です。今後とも皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

# 2021年度代議員総会報告

2021年度も昨年度と同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、代議員総会はメール等による書面審議とすることを役員会で決議し、2021年7月2日に議案書を送付し、7月12日を回答期限として実施いたしました。その結果、理事・代議員50名のうち47名から回答をいただ

き、異議がありませんでしたので、7月26日にメール配信にて議決されたことを確認いたしました。

議決された議案は、以下の通りです。

- ①2020年度事業報告及び収支決算
- ②2021年度事業計画及び収支予算

## 2020年度庶務報告

2020年度の一般事業として、入学記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、学友会・KUC援助、就職活動支援、農学部研究科支援、卒業記念品・学位記授与式写真の撮影、慶弔関連などを行いました。また、学術振興事業と

して優秀な業績を残した教員および学生に六條賞の授与を行いました。2021年度についても例年同様、一般事業および学術振興事業を維持していくことが代議員総会で承認されましたので、引き続き活動しています。

### ■役員

会長(学友会副会長・幹事長)	中村 直彦 (神Z 1回)	理事(学友会幹事)	西尾 司 (兵Z 16回)
副会長	辻 莊一 (兵Z 12回)	理事(ホームカミングデイ)	山田 健次 (神Z 12回)
副会長(ホームカミングデイ)	松井 功 (兵T 16回)	理事(渉外/ホームカミングデイ)	新岡 史朗 (神P 11回)
副会長(KUC/学友会幹事・学生会委員)	石賀 暢一 (神C 1回)	理事(会報)	森川 功一 (神C 11回)
副会長(会報委員長)	武 正興 (神C 3回)	理事(会報)	相野 公孝 (神P 12回)
副会長(会報/兵庫県庁支部長)	宮島 康彦 (神P 23回)	理事(会報)	大塩 哲視 (神C 23回)
副会長(会報/神戸市役所支部長)	安原 潤 (神A 15回)	理事(名簿)	河野 健児 (神Z 27回)
理事(代表)	原山 洋 (神Z 18回)	監事	永吉 照人 (兵A 13回)
理事(庶務/名簿)	福田伊津子 (神BC31回)	監事	南森 隆司 (神C 6回)
理事(会計)	笹崎 晋史 (神AS31回)	顧問	西川 欣一 (兵A 1回)
理事(広報)	鈴木 武志 (神C 23回)	顧問	能宗 康夫 (兵C 2回)
理事(KUC)	王子 善清 (兵C 12回)	顧問	北浦 義久 (兵A 6回)
理事(KUC)	坂井 永利 (兵A 12回)		

### ■代議員

酒井 修 (兵A 9回)	八木 剛 (神P 22回)
番匠 宏行 (兵Z 13回) 広島県支部長	乾 秀之 (神P 25回)
置塩 康之 (兵A 14回)	井上健一郎 (神C 25回)
長谷川信弘 (兵C 16回) 東海支部長	川端 忠則 (神A 26回)
照瀬 勝仁 (兵C 17回)	中塚 雅也 (神A 27回)
財田 福雄 (鶴 5回)	岡田 嘉夫 (神AE29回)
長谷川明彦 (神C 1回)	鳥居 明英 (神BE33回)
松本 幹夫 (神A 3回)	笹山 大輔 (神BE34回)
上山 維介 (神C 3回) 関東支部長	椋本久美子 (神PR34回)
矢代 学 (神P 10回)	藤間 大介 (神AS34回)
木村 省三 (神T 13回)	澤田 豊 (神AE35回)
門岡 織江 (神P 17回)	小田 哲也 (神AE37回)
松永 將義 (神C 17回)	中辻 優香 (神AE37回)
兼崎 雅弘 (神T 21回)	白石 郁美 (神AE39回)

● 2020年度事業報告 一般事業

項目	時期	内容	項目	時期	内容
入学者記念品贈呈 1) ロゴ・神大うり ぼー入り USBメモリー 2) ロゴ・神大うり ぼー入り トートバック 3) 六篠会報No.34	4月	入学者319名 (学部：168名、編入：8名) (修士：129名、博士：14名)	六甲祭援助		開催なし
	10月	入学者4名 (修士：0名、博士：4名)	就職活動支援		オンラインによる理工系就職ガイダンス等
		入会者 158名 (学部：140名、編入：7名、修士：7名、 博士：3名) 既入学者：1名	農学部研究科支援		施設使用料及び運営費 農学部教育研究振興基金
活動援助 学友会 KUC		幹事会、常任幹事会等 運営委員会、幹事会等	会報発行	12月	8,336部 (7,936部発送)
			六甲山マラソン大会		開催なし
支部 総会	県六篠会	開催なし	学位記・六篠賞の授与式	3月	卒業式用手提げ 袋贈呈 卒業記念パー ティ援助中止 の代替(卒業記 念エコバック・ マイ箸セット贈 呈、学位記授与 式の写真撮影)
	関東				
	広島県				
	KOBE六篠会				
	東海				
3月25日開催 卒業生170名 (内2名は9月卒業) 修了生122名 (内9名は9月修了) 写真撮影は、亀川カメラマンに依頼					

● 学術振興事業関連

● 学術講演会援助

	なし
--	----

● 海外学術活動援助

	なし
--	----

● 六篠論文賞

深山 浩	資源生命科学専攻応用植物学講座熱帯有用植物学教育研究分野 Hybrid Rubisco with Complete Replacement of Rice Rubisco Small Subunits by Sorghum Counterparts Confers C4 Plant-like High Catalytic Activity Molecular Plant (IF=12.804), 13(11), 1570-1581 (2020)
------	--

● 六篠業績賞

笹崎 晋史	資源生命科学専攻応用動物学講座動物遺伝育種学教育研究分野 「兵庫県黒毛和種集団における肉質関連遺伝子の同定」 日本畜産学会賞 (2021年度)
-------	---

● 六篠学術奨励賞及び六篠学生賞

学術奨励賞 (8名、内博士2名、修士6名)

宮路 直実	園芸植物繁殖学教育研究分野	船本 大智	昆虫多様性生態学教育研究分野
戸田 茉優	生産環境工学講座	津田有梨花	食料環境経済学講座
前田 瑞稀	応用動物学講座	小笠原実希	応用植物学講座
森田 康明	応用生命化学講座	高松 鮎美	農環境生物学講座

学 生 賞 (7名)

川端 孝典	生産環境工学コース	疋田双葉香	食料環境経済学コース
正田明日香	応用動物学コース	服部 哲士	応用植物学コース
小林 航平	応用生命化学コース	塚本 真衣	応用生命化学コース
柏木 結	環境生物学コース		

●慶弔関連

以下の方々が逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(順不同・敬称略)

小山 吉二 (鶴 1 回)	田中 芳隆 (鶴 2 回)	山口 禎 (兵A1回・旧教官)	武山 昇 (兵 C 8 回)
林 隆正 (兵 A 5 回)	島津 久明 (兵 A 10 回)	津田 安信 (鶴 5 回)	綾部 いつ子 (神 C 15 回)
永井 悟 (兵 A 4 回)	上垣 勝 (鶴 5 回)	橋本 博允 (兵 A 16 回)	玉岡 昌則 (兵 Z 6 回)
玉森 忠顕 (兵 C 6 回)	船引 浩一 (鶴 2 回)	前川 文男 (兵 C 9 回)	戸澤 昭夫 (兵 A 10 回)
古島 寿之 (兵 Z 4 回)	草川(山本)貞良 (鶴 1 回)	田中 平義 (兵 C 1 回)	
藤原 武文 (兵 A 8 回)	坂本 圭佑 (兵 C 1 回)	田淵 義朗 (兵 A 8 回)	
長井 禮三 (鶴 4 回)	高橋 吉博 (鶴 5 回)	加藤 征史郎 (旧 教 官)	

●退職及び着任教員

退職および着任された先生方をお知らせします。

(敬称略)

●退職された先生

ツェンコヴァ ルミアナ	教授	(2021.3)
金子 治平	教授	(2021.3)
大澤 朗	教授	(2021.3)
宮野 隆	教授	(2021.3)
三宅 秀芳	教授	(2021.3)
吉田 健太郎	准教授	(2021.3)
北風 智也	助手	(2021.3)
柴崎 浩平	特命助教	(2021.9)

●着任された先生 (育休代替およびプロジェクト専従の先生も含む)

木田 森丸	助教	(2021.2)
松岡 由浩	教授	(2021.4)
ツェンコヴァ ルミアナ	特命教授	(2021.4)
ムンカン エレナ	特命助教	(2021.4)
アンジアマヌヒアリスアマナ フェトラ ジュール	特命助教	(2021.4)
八木 浩平	准教授	(2021.6)
林 大輝	助教	(2021.9)
蛭川 暁	助教	(2021.10)

支部だより

KOBE 六篠会



会長 林 昌弘 (神A16回修14回)

この度会長に就任いたしました林昌弘です。KŌBE 六篠会の現況を会員7年目になる石井 淳(神 AS42 回博前 40 回)さんに紹介していただきます。

KŌBE 六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、1984年に結成されました。現在は、会員151名(現職会員73名、OB会員70名、名誉会員8名)を数えています。

会員の採用区分は農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も環境局(廃棄物や環境保全の業務)、保健所(食品衛生・環境衛生・動物衛生の業務)、経済観光局(農・水産・畜産の農政振興の業務)、建設局(道路、下水道、公園などの土木関係の業務)、水道局(水質検査などの業務)、区役所(まちづくりなどの業務)など多岐にわたっています。市民に身近な業務として安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となって取り組んでいます。

私は、2015年度に衛生監視として採用され、今年で入庁して7年目になります。

入庁して最初の4年間は、中央卸売市場内にある食品衛生検査所で、主に市場を流通する食品(魚介類、青果物、その他加工食品)の検査並びに市場内の施設の監視指導

業務に携わりました。検査の結果、違反が判明した際には、販売停止・回収・廃棄等の措置を行うこともありました。また、市場のせり売りが行われる前に、有毒魚介類の排除、検査品の抜き取り、低温管理等の食品の衛生的な取扱いに係る指導をするため、AM3:30からの監視業務を活気のある市場で行うという貴重な経験をしました。

その後、2019年度に保健福祉局生活衛生課に異動し、主に旅館業、公衆浴場、住宅宿泊事業(いわゆる民泊)などを中心とする環境衛生業務に2年間携わりました。従来の公衆衛生上の規制や無許可で宿泊業を営むいわゆる違法民泊への対応をする一方で、観光旅客の宿泊需要の宿泊をめぐる状況を鑑みた観光業の側面をもった住宅宿泊事業法も所管するという難しい立場の業務であり、さらには旅館業法の改正など業界が大きく変わる時期も重なり、多忙な日々を過ごしました。

それらを経て、2021年度に中央区役所内の保健所東部衛生監視事務所に異動になり、現在は主に動物衛生業務に携わっています。新たな分野の業務に就くことになったのですが、またもや所管する動物の愛護及び管理に関する法律の改正のタイミングということもあり、日々の業務は忙しいですが、職場の方々にも恵まれ、支えられながら業務に取り組むことができています。

## 2020年度収支決算

### 2020年度一般会計決算

収入	7,729,881円
支出	6,803,913円
残高	925,968円

#### ■収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
入会金	7,000,000	6,320,000	-680,000	40,000円x(158名)
雑収入	1,000	19	-981	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	1,409,862	1,409,862	0	
合計	8,410,862	7,729,881	-680,981	

#### ■支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
農学部援助金				
一般援助費	550,000	550,000	0	構内整備等
国際化援助費	500,000	500,000	0	農学部教育研究振興基金
一般事業費				
会報発行費	1,650,000	1,714,714	64,714	会報35号8,336部
各種活動援助費	600,000	130,000	-470,000	支部活動、学生活動支援
入学記念祝賀費	500,000	397,276	-102,724	USBメモリ200個、トートバッグ
卒業記念祝賀費	450,000	415,686	-34,314	エコバッグ、箸ケース
卒業生名簿等管理費	30,000	37,043	7,043	
代議員総会経費	250,000	20,886	-229,114	
一般事務費	1,000,000	738,960	-261,040	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	60,000	0	-60,000	
慶弔費	250,000	204,948	-45,052	退職教員記念品
褒賞費	50,000	0	-50,000	
役員活動費	600,000	184,400	-415,600	
神戸大学校友会費	110,000	110,000	0	年会費等
繰り出し金	1,500,000	1,500,000	0	六條会基金へ繰り出し
予備費	310,862	300,000	-10,862	神戸大学基金新設工費(建設費)等
支出合計	8,410,862	6,803,913	-1,606,949	
次年度への繰越金		925,968	925,968	
合計	8,410,862	7,729,881	-680,981	

### 2020年度六條会基金決算

収入	29,263,676円
支出	1,010,440円
残高	28,253,236円

#### ■収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
前年度からの繰越金	27,762,600	27,762,600	0	
繰入金	1,500,000	1,500,000	0	
雑収入	5,000	1,076	-3,924	預金口座利息
合計	29,267,600	29,263,676	-3,924	

#### ■支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
学術活動援助費	200,000	0	-200,000	
六條賞	600,000	510,000	-90,000	学部7件、修士6件、博士2件、教員3件
海外学術活動援助費	500,000	0	-500,000	
一般事務費	1,000	440	-560	銀行引き出し手数料
予備費	0	500,000	500,000	神戸大学基金新設工費(建設費)等
支出計	1,301,000	1,010,440	-290,560	
保留金	27,966,600	28,253,236	286,636	
合計	29,267,600	29,263,676	-3,924	

会員の皆様からの本会へのご連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見などおまちしております。なおご連絡の際には、所属学科、卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

同窓会事務局の案内

- FAX:078-881-2752
- e-mail:rikusoukai@yahoo.co.jp
- ホームページ  
<https://www.rikusoukai.org/>



HP

「支部だより」の項は、各支部とも活動が休止状態です。特別に東京六甲クラブの紹介を関東支部長の上山維介代議員に支部の報告と併せて執筆していただきました。

KOBE六條会からの支部報告をいただきましたので、ページ構成上変更ですが23頁に掲載させていただきます。多くの方のご協力により、読み応えのある会報になったと思いますので一読ください。

会報担当理事一同

編集後記

新型コロナウイルスによる活動自粛が二年目となり、同窓会関係事業も休止状態のものも多く会報の構成を大幅に変更せざるを得なくなりました。会報担当理事だけでなく、全理事、代議員の皆様にもお知恵を貸していただき、「輝く同窓生」と題して執筆していただく方を推薦いただきようやく発行に漕ぎつきました。